UCHIDA

T01106000018B

取扱説明書

セキュレージ

SECURAGE

管理者マニュアル

V3.0　2013 年版

ご使用になる前に、この『取扱説明書』をよくお読みください。
いつでもお読みになれるよう保管場所を決めて、大切に保管して下さい。

株式会社 内田洋行

このたびは SECURAGE シリーズをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全な使用のために必ず守ってください

この説明書には、当製品を安全にご使用頂くための重要な情報が記載されています。お使いになる人や他の人への損害を未然に防ぐため、本説明書を熟読・理解の上、当製品をご使用ください。

〔この説明書の見方〕

警告表示について

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を次の警告表示で区分し、説明します。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が障害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

〔警告・注意ラベルについて〕

本装置には、各種警告・注意ラベルが貼り付けてあります。

ラベル類は絶対にはがさないでください。また汚れてメッセージが見えにくくなった場合は、担当営業までご連絡ください。

〔お願い〕

- 当製品は、日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売させていただいております。したがって、日本国外でのご使用はできません。万一ご使用された結果の影響につきましては、一切責任を負いかねます。
- 当製品の修理は、お客様自身で行わないでください。弊社にご連絡の上、担当保守員によるメンテナンスを受けてください。
- お客様による当製品に改造、当製品中古品を再生して使用された結果の影響につきましては、一切責任を負いかねます。
- 当製品には弊社で指定した機器のみを接続してください。指定以外の機器を接続した結果の影響につきましては、一切責任を負いかねます。
- 当製品には弊社で指定したサプライ用品をご使用ください。指定以外のサプライ用品を使用した結果の影響につきましては、一切責任を負いかねます。（サプライ用品につきましては、担当営業にご相談ください。）
- 設置場所を変更する際には、担当営業または SECURAGE ヘルプデスクにご相談ください。
- 装置の廃棄について
  交換した乾電池及び使用済みとなった装置に使用されている乾電池は、リサイクルにご協力ください
- 乾電池を外した本装置の廃棄は、“産業廃棄物”として処理して下さい。この製品の所有権が事業主の場合には、使用済み後に廃却される製品は産業廃棄物扱いとなり、廃棄する際は、マニフェスト伝票（廃棄物管理表）の発行が必要となります。

⚠ 警告

－ 濡れた手で電源プラグを抜差ししない。

感電のおそれがあります。

－ 装置を分解したり、改造したりしない。

内部に高電圧部分があるため、感電や火災のおそれがあります。

－ 動作中は、手や顔を入れない。

ケガ（指挟みなど）のおそれがあります。

－ 扉を開けた状態で取扱説明書に明記された以外の動作をさせない。

ケガ（指挟みなど）のおそれがあります。

⚠ 注意

－ 直射日光の当たる所や暖房機の近く、湿気、ホコリの多い所には置かない。

感電や火災のおそれがあります。

－ 装置の上に重いものを置いたり、装置の上で作業しない。

転倒、落下のおそれがあります。

－ 装置の上に水気のあるものを置かないで下さい。

装置が濡れることにより故障・発煙・発火のおそれがあります。

－ 不安定な場所に置かない。

転倒、落下のおそれがあります。

－ 装置を濡れたもので清掃しない。

装置内部に水が入ることにより故障、また作業者が感電するおそれがあります。

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。
FeliCa（フェリカ）は、ソニー株式会社の登録商標です。
MIFARE（マイフェア）は NXP セミコンダクターズの登録商標です。
おサイフケータイは、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモの登録商標です。
本書に記載されている会社名、商品名等は、一般にそれぞれの会社、版権所有者の商標または登録商標です。

本書の一部、または全部を無断で転写、複写することは、固くお断りいたします。

はじめに

このたびは、弊社 IC カード対応収納家具 SECURAGE をお買い求めいただきまして、真にありがとうございます。
本書では、IC カード対応収納家具 SECURAGE の利用方法や、管理者の運用方法、ソフトウェアの使用方法について説明しております。
本書にしたがって正しい運用をされ、IC カード対応収納家具 SECURAGE を有効にご利用下さい。

使用上の注意

・完全な本人認証、照合を保証するものではありません。弊社では本システムを使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切責任を負いかねますので予めご了承下さい。

・IC カード対応収納家具 SECURAGE は人命にかかわる用途、または高度な信頼性、安全性を要する用途での使用は考慮されておりません。このような用途で使用される設備への利用は避けてください。

・IC カード対応収納家具 SECURAGE は日本国内仕様であり、添付のソフトウェア、ドライバなどは各 OS の日本語版にのみ対応しております。

目次

第1章　概要　6

第2章　名称と機能　8
2．1　各部の名称(表面)　8
2．2　リーダライタ(R/W)部(詳細)　10
2．3　オプション　11
2．4　リーダライタ(R/W)部設置諸元　12

第3章　SECURAGE の操作方法　13
3．1　カードについて　13
3．2　管理者の操作方法(カード運用)　15
3．3　管理者の操作方法(USB 通信運用)　17
3．4　管理者の操作方法(赤外線運用)　18
3．5　ログの管理　19

第4章　ソフトウェアのインストール　20
4．1　PaSoRi ソフトウェアのインストール　20
4．2　USB 運用時の設定方法について　22
4．3　赤外線ユニット使用時の設定方法について　25
4．4　MICROSOFT .NET FRAMEWORK 2.0 のインストール　28
4．5　SECURAGE ソフトウェアのインストール　31

第5章　ソフトウェアの利用方法　33
5．1　初回起動　33
5．2　ログインしたいとき　35
5．3　COM ポートの確認　36
5．4　各種設定を変更したいとき　40
5．5　履歴情報を閲覧・取得したいとき　49
5．6　扉情報を閲覧・更新したいとき　52
5．7　ユーザー情報を閲覧・更新したいとき　61
5．8　R/W の時刻設定をしたいとき　68

第6章　消耗品などについて　72
6．1　電池交換　72

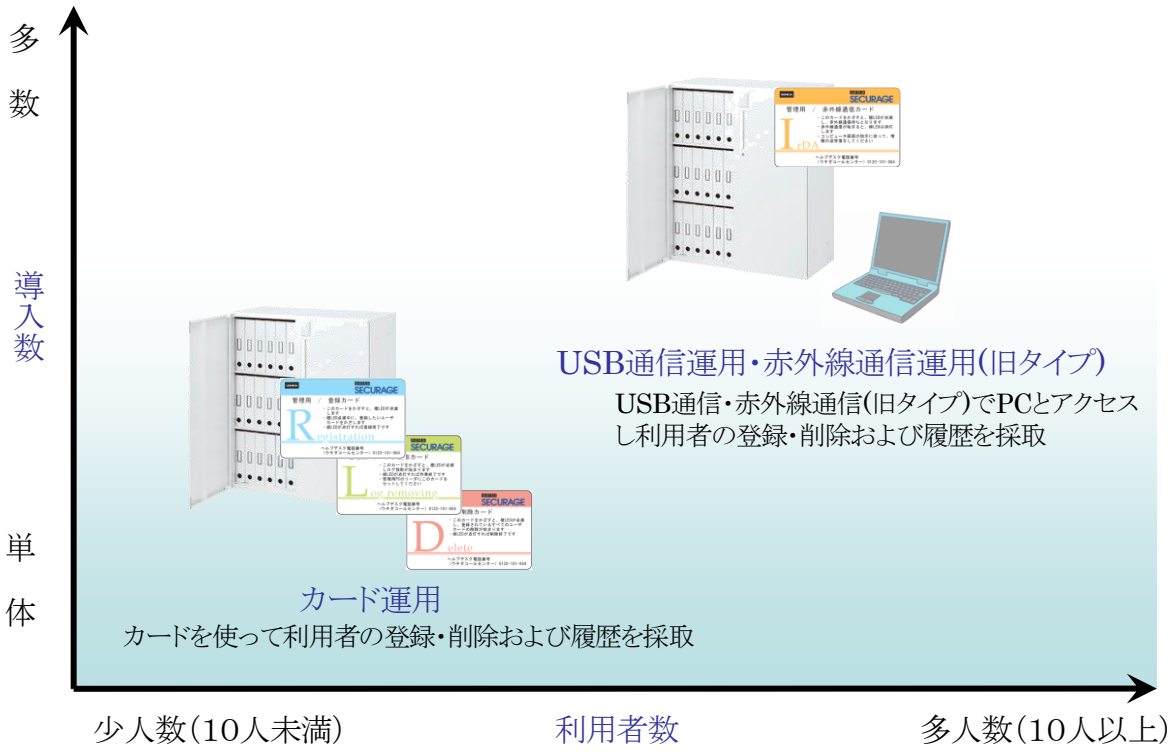
第7章　ヘルプデスクについて　75
7．1　ヘルプデスクの内容　75

第8章　留意事項　76
8．1　非常解錠について　76
8．2　ユーザ登録書について　76
8．3　登録カードについて　76

第9章　困ったときは　77
9．1　よくあるトラブルと解決方法　77
9．2　USB 通信エラー時に画面表示されるエラー番号について　78
9．3　赤外線通信エラー時に画面表示されるエラー番号について　78

第一章　概要

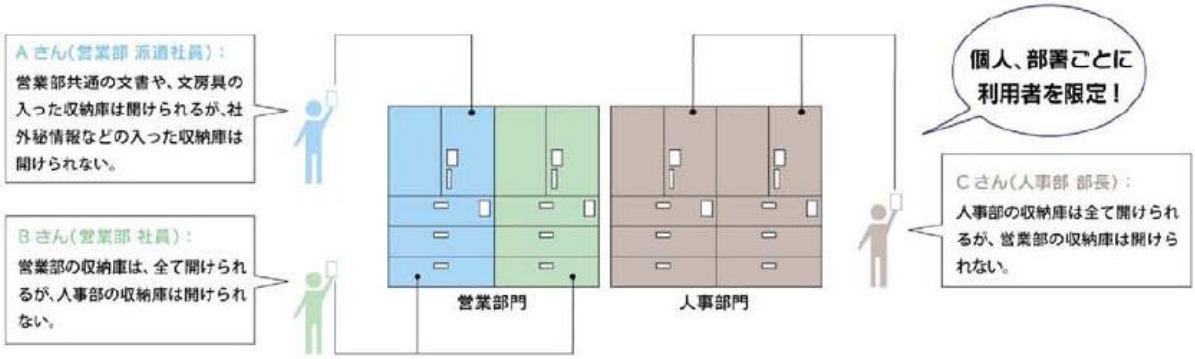
用途に応じた運用方法



特長

・各扉にリーダライタがあり複数名同時開錠の操作性に優れております。

ICカード収納庫は、扉ごとにアクセスできる利用者を設定できるので、不要な扉へのアクセスを防ぐとともに、必要な扉の鍵を複数持つ不便さからも解放されます。また、「いつ」「誰が」扉を開錠したか履歴が残りますので、不正の抑止力を発揮し、万一の場合でも誰が開錠したのか確認ができます。



・カード運用の特長

管理用カードによる運用管理。（パソコン無しでの登録＆運用が可能）

管理用のカードとしては登録カード、全削除カード、ログ採取カード （USB 通信タイプ、赤外線通信タイプとも最新の 100 件※まで採取可能） を利用します。

※ USB 通信タイプ：UID 運用、Felica IDm の場合最新の 100 件、Felica カスタム ID の場合最新の 50 件。MIFARE UID の場合 100 件、MIFARE カスタム ID の場合 50 件となります。

※ 赤外線通信タイプ(旧タイプ)：Felica IDm の場合最新の 100 件。Felica カスタム ID の場合は最新の 50 件となります。

■ Felica IDm/MIFARE UID 運用：
IC カード製造時に記録される固有の ID 番号。SECURAGE では通常この ID 番号を利用し登録、削除など運用を行う。

■ Felica カスタム ID/ MIFARE カスタム ID 運用：
データフォーマット(サービスコードのどの部分を使用するか)をユーザーで定義する運用方法。使用するカードフォーマットの仕様を確認する必要があります。

・USB 通信運用の特長

USB 通信による利用者登録/削除と履歴の採取。

通信カード※を利用して、SECURAGE を USB 通信のモードに切り替えます。

・赤外線通信運用(旧タイプ)の特長

赤外線通信（IrDA）による利用者登録/削除と履歴の採取。

赤外線通信／通信カード※を利用して、SECURAGE を赤外線通信のモードに切り替えます。

※2008 年 1 月出荷分よりカード表面に印刷している名称が「通信カード」に変更になっています。

第２章　名称と機能

2.1　各部の名称（表面）

両開き書庫

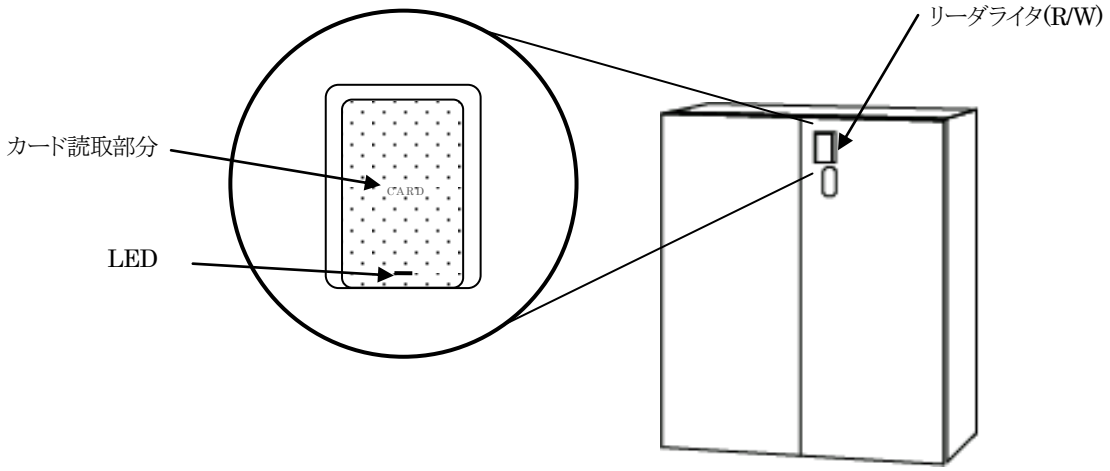


図　両開き書庫表面

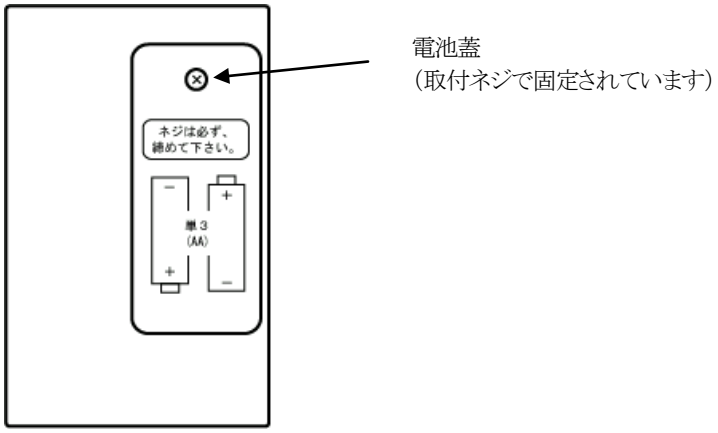


図　R/W 裏面（両開き書庫）

ラテラルキャビネット

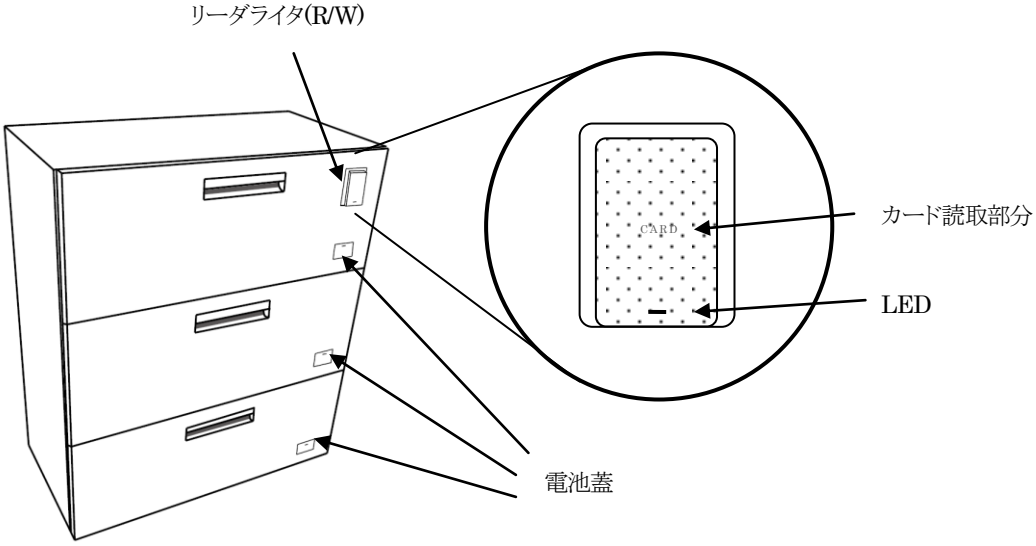


図 ラテラルキャビネット表面

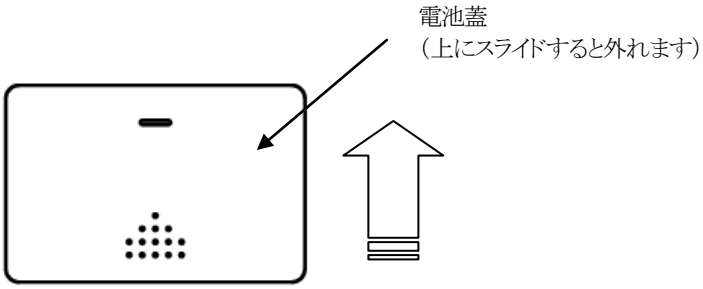


図 電池蓋

2.2 リーダライタ(R/W)部（詳細）

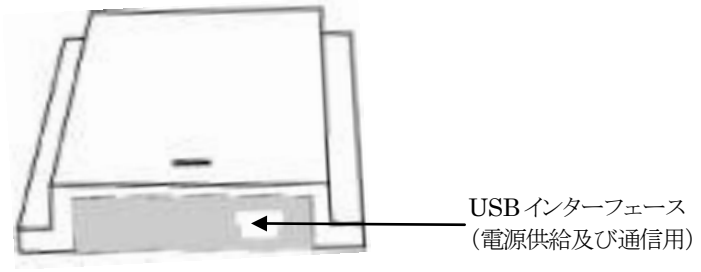


図 R/W 下部(USB 通信用 SECURAGE2 ／FM)

（旧タイプ）

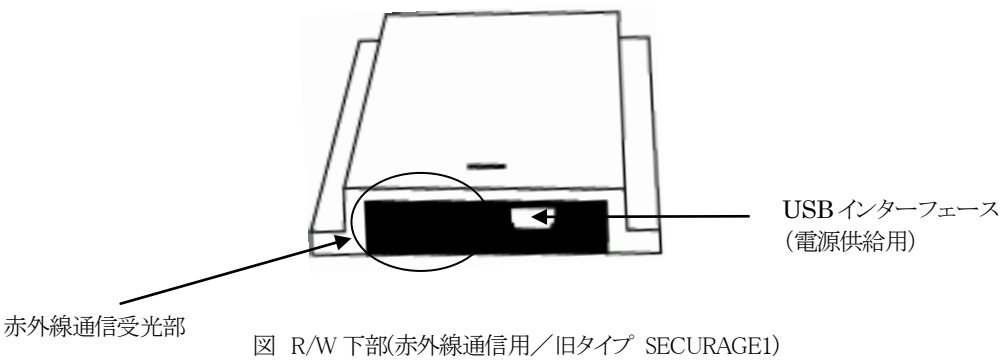


図 R/W 下部(赤外線通信用／旧タイプ SECURAGE1)

2.3 オプション

SECURAGE 関連の製品には次のものがあります。お使いになる前にお手元にある梱包物と下の製品名称／外観を確認ください。

■/両開き書庫/ラテラルキャビネット本体

■ 制御セット（商品コード：6-655-0560）・・・SECURAGE を御使用するにあたり必要となります。
- ・登録カード
- ・ログ採取カード
- ・全削除カード
- ・赤外線通信／通信カード

※2008 年 1 月出荷分よりカード表面に印刷している名称が「通信カード」に変更になっています。

・外部電源/通信用ケーブル（USB ケーブル[A 型⇔miniB 型]）

・CD-ROM
SECURAGEFM ソフトウェア（ログ収集プログラム）

CD-ROM 収録内容
- ・ログ収集プログラムインストーラー / SecureStorageSetup.msi
- ・SECURAGE FM 取扱説明書 / SECURAGEFM 取扱説明書.pdf
- ・MS .NET FRAMEWORKS / NetFx20SP1_x86.exe
  NetFx20SP1_x86ja.exe
- ・USB ドライバインストール / CP210x_VCP_Win_XP_S2K3_Vista_7.exe

・マニュアル一式
管理者マニュアル（本書）

■FeliCa カードリーダーライタ PaSoRi

推奨パソリ:RC-S330/S
対応機種:RC-S330、RC-S370 ※ともに廃版

ドライバのインストールが必要です。
詳細は SONY JAPAN の HP をご覧ください。
(http://www.sony.co.jp/Products/felica/consumer/download/felicaportsoftware.html?j-short=fsc_dl)

※PC-S320 以前・PC-S380 以降のバージョンには対応しておりません。
前述の推奨機種・対応機種をご使用ください。(本体の黒いもの)

■赤外線ユニット (別途購入時、商品コード:6-655-0476)

ACTiSYS

USB-シリアル変換インターフェイス

上図の 2 つの製品(ACTiSYS、USB-シリアル変換インターフェイス)が同梱されています。
使用する際にはこの 2 つの製品を接続し、パソコンの USB ポートに接続してください。

※赤外線通信用 SECURAGE(旧タイプ)本体のリーダライタ(R/W)部に内蔵されている時計を調節する場合や PC を使ってログ収集をする場合、この赤外線ユニットが必要です。

2.4 リーダライタ(R/W)部設置諸元

R/W 部	リーダライタ(R/W)	FeliCa、MIFARE 対応
	通信距離	カード読出し部より最大 15mm
	適応カード	①SONY RC-S860 相当カード ②MIFAREⓇ(Standard1K、4K) ※赤外線通信タイプ(旧タイプ)は①のみ対応
表示機能		LED 3 色表示(赤/緑/橙)
設置条件	電源	単 3 形アルカリ乾電池×2
	電池寿命	約 1 年(1 日 10 回操作した場合)※
	設置環境	動作温度:0～+40℃
		周囲湿度:35～85%RH ただし結露なきこと
		設置場所:直射日光を避けた風雨にさらされない場所

※解錠回数の目安です。解錠後、扉を一定時間開けたまま等の場合、電池寿命が短くなる場合があります。

第３章 SECURAGE の操作方法

3.1 カードについて

利用するカードには、大きく分けて扉の動作を設定する管理用のカードと、実際の利用者が、扉の開錠のために使うユーザカードがあります。

管理用のカードには SECURAGE の運用にあわせて、下記のカードが標準で用意されています。

3.1.1 管理用のカード

管理用として以下の4種類のカードが標準添付されます。

・登録カード（カード運用時使用）
：利用者カードの情報を扉に登録するとき使用します。

・ログ採取カード（カード運用時使用）
：扉に蓄積されたログ（利用履歴）を採取するとき使用します。

・全削除カード（カード運用時使用）
：扉に登録された利用者カードの情報を全て削除するとき使用します。

・赤外線通信カード（赤外線通信運用・USB 通信運用時使用）
：利用者一括登録や、削除、ログ（利用履歴）の採取を赤外線通信・USB 通信のモードに切り替えるときに使用します。

登録カード

ログ採取カード

全削除カード

赤外線通信／通信カード※

※2008 年１月出荷分よりカード表面に印刷している名称が「通信カード」に変更になっています。

3.1.2 ユーザカード

扉の開錠に使用するカードです。

開錠には、リーダライタ(R/W)（扉）に予めカード情報が登録されている必要があります。登録方法は「3.2.1 利用を始める時（利用者情報の登録）」（P15）を参照して下さい。

ユーザカードとしては新規で作成する他、お手持ちの FeliCa 仕様（SONY RC-S860 相当カード）の社員証/職員証や学生証などのカードが利用できます。

※ 所有権が他社にあるカード（交通系カード、警備系カード）のご利用に関しては、各々のカードの利用約款（利用規定）に準じる必要があります。

学生証

社員証

おサイフケータイ

①扉の開錠について

USB 通信タイプの場合は開錠操作の前に、**カード読み取り部分を正面からプッシュし、リーダライタ(R/W)を起動させます。**（この際ピッという音がします。）

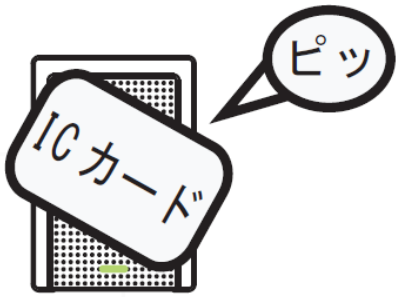
カード読取部分にユーザカードをかざします。ピッと音がして、LED ランプが緑に点滅し扉を開けることができます。

赤外線通信タイプ(旧タイプ)はカード読み取り部分にユーザカードをかざすだけで扉を開けることができます。

開錠中はLEDランプが緑に点滅します。

ラテラルキャビネットは全段開錠になります。

※構造上、複数段の同時開錠はできません。

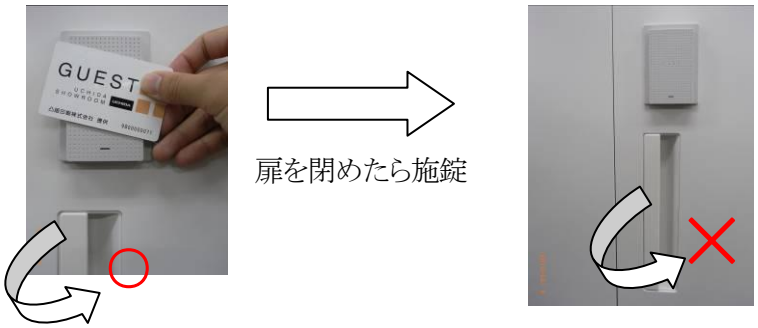


↑緑 LED 点灯

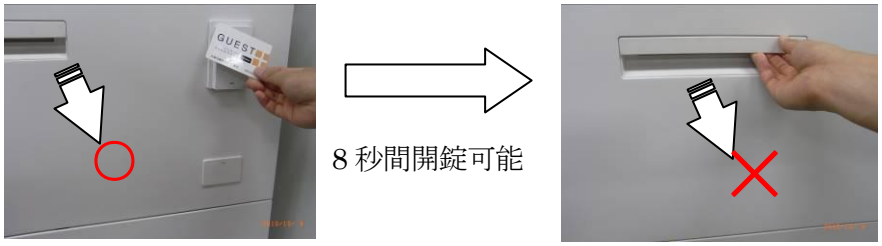
②扉の施錠について

両開き書庫の場合：　扉を閉めると、自動で施錠されます。

また、開錠しただけで扉を開けなかった場合、10 秒程度で自動施錠されます。

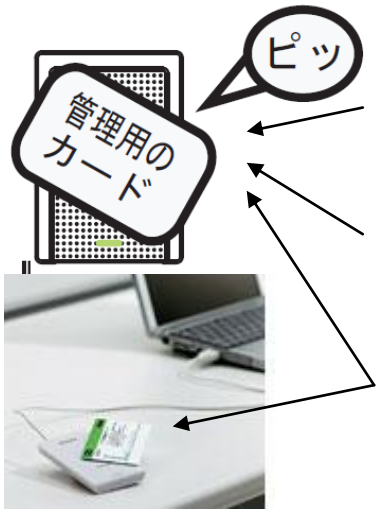


ラテラルキャビネットの場合：一定時間経過すると施錠されます（約 8 秒）。施錠状態でも扉を閉めることはできます。



3.2 管理者の操作方法（カード運用）：のべ使用者数が少ない場合

登録や履歴(ログ)採取、登録者削除をカードで実施する。



登録:
新規に利用者を登録する場合に登録カードを使用
1扉につき1000名迄登録可能（旧タイプは100名）

登録削除:
扉の利用者が変更になった時、
また利用停止したとき全削除カードを使用
全員分が一括で消去

履歴採取:
トラブルが発生したとき、また定期的なログバックアップに
ログ採取カードを使用
最新100件*迄カードに採取可能パソコンにデータ読込み

*運用モード・R/W 種類によって異なります。「第一章　概要」参照。

3.2.1 利用を始める時（利用者情報の登録）

利用させたい利用者のカード情報をリーダライタ(R/W)に対して登録します。

【準備】使用するカード:「登録カード」

① リーダライタ(R/W)を起動し、「登録カード」をカード読取部にかざすと、リーダライタ(R/W)はカード登録モードになります。LED ランプが橙に点滅します。

② LED ランプが橙に点滅している一定時間(10 秒)の間に、利用させたい「ユーザカード」をかざします。

※ 「ユーザカード」をかざす前に 10 秒以上経過して LED ランプが消灯してしまった場合は、再度「登録カード」をかざしてください。

③ 登録が成功すると、ピッと音がして LED ランプは緑に点灯します。(登録した「ユーザカード」が開錠に使えるようになります)

※ 扉への登録は、1つの扉あたり最大 1000 件(旧タイプは 100 件)となります。

3.2.2 利用を止める（利用者情報の削除）

・赤外線通信用 SECURAGE(旧タイプ)の場合

ある利用者の利用を停止するときは、リーダライタ(R/W)に登録されているすべての利用者情報を一旦削除した後、再度必要な利用者の情報を登録することになります。特定の利用者情報のみを削除することはできません(PC 上の管理ソフトから、1人単位で削除することは可能です)

【準備】使用するカード:「全削除カード」

リーダライタ(R/W)を起動し、「全削除カード」をカード読取部にかざすと、LED ランプが橙に点滅し、そのリーダライタ(R/W)に登録されている全ての利用者情報が削除されます。LED ランプが緑に点灯すると削除は終了します。

※ 登録利用者情報の全削除になりますので、十分ご注意下さい。

・ USB 通信用 SECURAGE の場合
SECURAGE（USB 通信タイプ）のみ、カード運用で1人単位で削除することが可能です。

【準備】使用するカード：「登録カード」、「全削除カード」、「利用停止したいユーザーカード」
リーダーライタ（R/W）を起動し、「登録カード」をカード読取部にかざすと、一定時間（10 秒間）LED ランプが橙色に点滅します。次に「全削除カード」をかざすと、一定時間（10 秒間）LED ランプが橙色に点灯します。
「利用停止したいユーザーカード」をかざすと、LEDランプが緑に点灯し、その R/W に登録されている利用者情報が削除されます。

新たに利用者を登録する（利用者情報の追加登録）

利用させたい利用者を追加登録したい場合は、「3.2.1 利用を始める時（利用者情報の登録）」を参照下さい。

3.2.3 ログ（利用履歴）を採取する

リーダライタ(R/W)を起動し、利用履歴（開錠履歴）を、リーダライタ(R/W)から「ログ採取カード」内のメモリに採取（コピー）します。

① 「ログ採取カード」をカード読取部にかざすとLEDランプが橙に点滅し、その扉に蓄積さている利用履歴がカード内のメモリに採取されます。LED ランプが緑に変わるとログの採取は終了です。
※USB 通信タイプ：UID 運用、Felica IDm の場合最新の 100 件、Felica カスタム ID の場合最新の 50 件。
MIFARE UID の場合 100 件、MIFARE カスタム ID の場合 50 件となります。

※赤外線通信タイプ(旧タイプ)：Felica IDm の場合最新の 100 件。Felica ID の場合は最新の 50 件となります。
② 「ログ採取カード」に採取されたログをパソコンに取り込み、画面にて確認します。
※この場合 IC カードリーダ パソリ が必要になります
ログ情報は1扉採取する毎に、パソコンに取り込んでください。続けて複数の扉からログを採取しても、最後の扉のログ情報のみが有効になります。
※ 「第 5 章 ソフトウェアの利用方法」を参照下さい。

3.3 管理者の操作方法（USB 通信運用）：のべ使用者数が多い場合

通信：
処理をする扉に対して通信カードを使用し
通信を開始、
その後通信を通じてPCにて以下の処理を行う
登録：　通信ポート経由（1,000名迄/扉）
履歴採取：　通信ポート経由（24,000件/扉）
登録削除：　通信ポート経由

USB通信

3.3.1 利用者情報の登録/削除/追加、およびログ（利用履歴）を採取する

作業は全て USB 通信にて行います。USB 通信による各種操作はパソコンにインストールされた SECURAGE ソフトウェアと扉を通信モードにすることで行います。

【準備】使用するカード：「通信カード」
USB ケーブル、SECURAGE ソフトウェアをインストールしたパソコン

① 準備したパソコンの USB ケーブルを扉の USB コネクタに装着します。USB コネクタには樹脂製の蓋が実装されています。USB ケーブルを装着する前に蓋を外し、操作終了後にはケーブルを抜いた後、蓋を閉めて下さい。

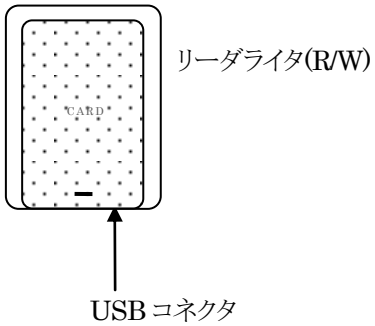


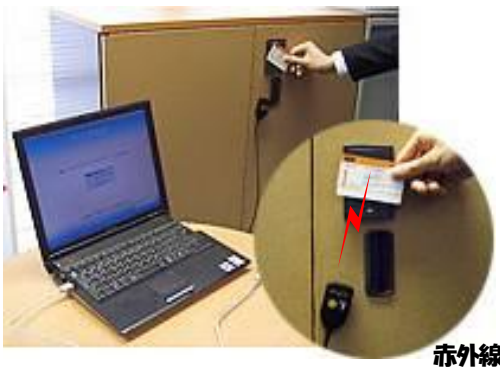
図 通信ケーブルの接続

② SECURAGE ソフトウェアを起動し、操作を行います。
※ 「第 5 章 ソフトウェアの利用方法」(P34)を参照下さい。

③ 「赤外線通信/通信カード」をカード読取部にかざし、扉を通信モードにします。LED ランプが橙に点灯し、実際の通信が始まると LED ランプは橙で点滅します。
※ 通信の終了はパソコン側のソフトウェアで確認することができます。

※ 2008 年 1 月出荷分よりカード表面に印刷している名称が「通信カード」に変更になっています。

3.4 管理者の操作方法（赤外線通信運用/旧タイプ）：のべ使用者数が多い場合



赤外線通信

赤外線通信：
処理をする扉に対して赤外線カードを使用し
赤外線通信を開始、
その後通信を通じてPCにて以下の処理を行う
登録：　赤外線ポート経由（100名迄/扉）
履歴採取：　赤外線ポート経由（600件/扉）
登録削除：　赤外線ポート経由

※2008 年 1 月出荷分よりカード表面に印刷している名称が「通信カード」に変更になっています。

3.4.1 利用者情報の登録/削除/追加、およびログ（利用履歴）を採取する

作業は全て赤外線通信にて行います。赤外線通信による各種操作はパソコンにインストールされた SECURAGE ソフトウェアと扉を赤外線通信モードにすることで行います。

【準備】使用するカード：「赤外線通信/通信カード」
赤外線ユニット、USB-シリアル変換インターフェイス、SECURAGE ソフトウェアをインストールしたパソコン

② 準備したパソコンの赤外線ユニットをリーダライタ(R/W)下部の赤外線ポート近くに設置します。

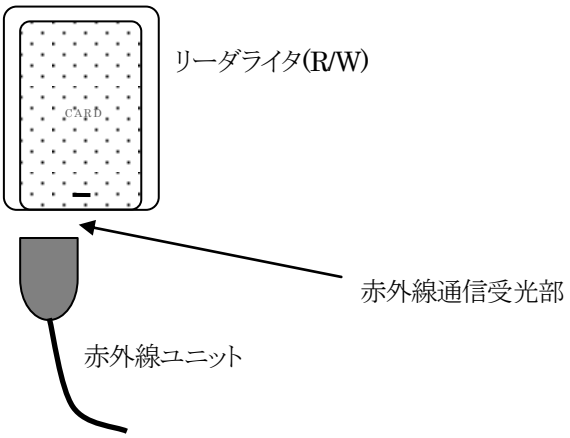


図 赤外線ユニットの設置

③ SECURAGE ソフトウェアを起動し、操作を行います。
※ 「第 5 章 ソフトウェアの利用方法」(P34)を参照下さい。

④ 「赤外線通信/通信カード」をカード読取部にかざし、扉を赤外線通信モードにします。赤外線通信が可能になると LED ランプが橙に点灯し、実際の通信が始まると LED ランプは消灯します。
※ 通信の終了はパソコン側のソフトウェアで確認することができます。

※ 2008 年 1 月出荷分よりカード表面に印刷している名称が「通信カード」に変更になっています。

3.5 ログの管理

ログ採取カードでの1回のログ採取件数は、UID 運用、Felica IDm の場合最新の 100 件、Felica カスタム ID の場合最新の 50 件。MIFARE UID の場合 100 件、MIFARE カスタム ID の場合 50 件となります。
リーダライタ(R/W)に保存される利用履歴は USB 通信仕様は最大 25000 件、赤外線通信仕様(旧タイプ)で最大 600 件、これを超えると古い日付のものから削除されます。
以下に、扉を開ける頻度とログを採取するタイミングの目安を記します。

1 日に扉を開ける回数	カード仕様の場合（100 件蓄積されるまでの期間）	USB 通信仕様の場合（24,000 件蓄積されるまでの期間）
1	約 5 ヶ月	約 100 年
5	約 1 ヶ月	約 20 年
10	約 10 日	約 10 年
20	約 5 日	約 5 年
50	約 2 日	約2年
100	約 1 日	約1年

注）1ヶ月を20日間で換算

※ 数値上は1年以上扉内に保存できますが、セキュリティ上定期的になるべく短いサイクルで採取することをおすすめ致します。
※ カード仕様の例は Felica IDm/MIFARE UID カード運用の場合で記述しています。

注意

【大切なデータを失わないために（データバックアップの勧め）】
本製品に記録されたデータ（利用者情報、ログ情報など）の保全についてはお客様自身で定期的な情報採取／バックアップなどの必要な対策を行ってください。万が一、データが消失した場合の損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

第４章　ソフトウェアのインストール

この章では、SECURAGE を管理／運用するために必要なソフトウェアのインストール及び設定について説明します。各製品の外観等については、『2.3 オプション』のページをご覧下さい。

USB 通信タイプ・赤外線通信タイプ(旧タイプ)でインストールが必要なソフトウェアは以下のとおりです。

インストールはすべて、コンピュータの Administrator 権限をもつユーザで行ってください。

・ USB 通信タイプ：PaSoRi ソフトウェア(4.1 参照)
MICROSOFT .NET FRAMEWORK 2.0(4.4 参照)
Silicon Laboratories CP210x VCP Drivers(4.2 参照)

・ 赤外線通信タイプ(旧タイプ)：PaSoRi ソフトウェア(4.1 参照)
MICROSOFT .NET FRAMEWORK 2.0(4.4 参照)
USB-RSAQ3 又は 5(4.3 参照)

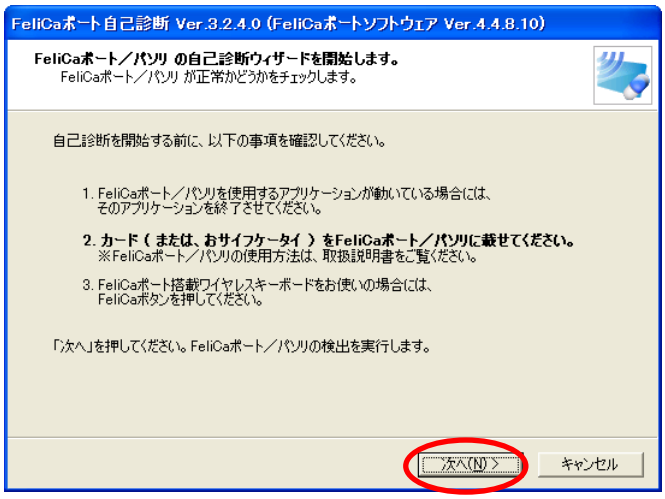
4.1 PaSoRi ソフトウェアのインストール（ログ採取カードにて解錠履歴を収集する場合、FeliCa IDm 運用・Felica SSFC 運用・Mifare UID 運用でカード番号を読み取る場合に必要）

SONY の HP より最新のドライバをダウンロードしインストールを行ってください。

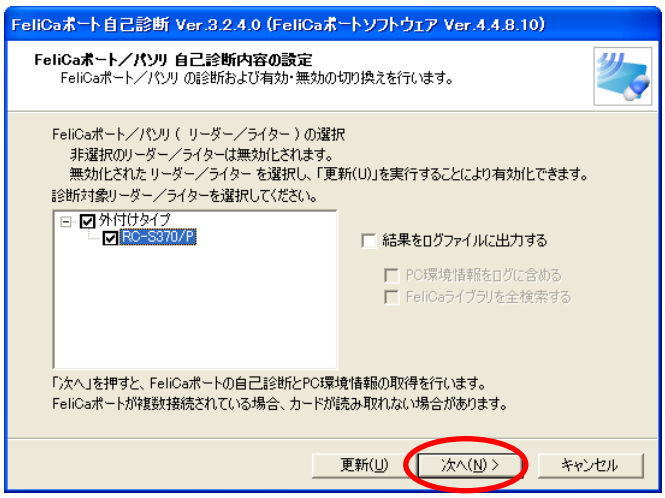
※ インストールに関しては SONY のホームページのインストールガイドを参照してください。
（http://www.sony.co.jp/Products/felica/consumer/support/setup/felicaportsoftware.html）
推奨機種・対応機種以外のバージョンには対応しておりません。推奨機種・対応機種をご使用ください。（12P 参照）

インストール完了後、PaSoRi ハードウェアを利用するパソコンの USB ポートに接続します。
ハードウェアが正常に動作するか確認します。

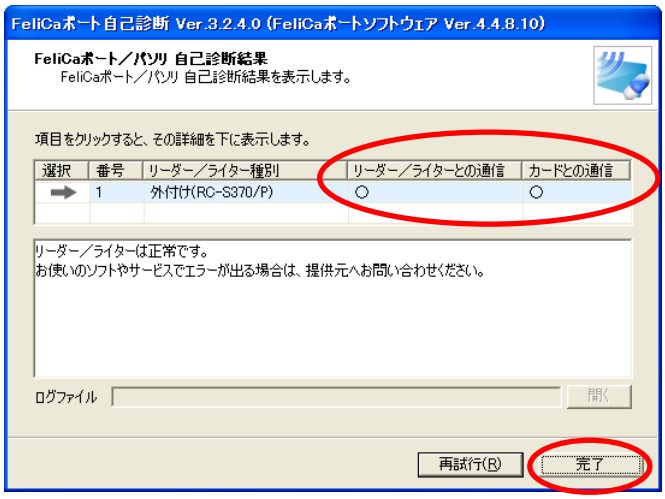
『スタート』－『すべてのプログラム』－『NFCポート』－『NFCポート自己診断』を選択し、診断プログラムを起動します。



画面に表示されている内容をお読み頂き、PaSoRi リーダ装置に利用者カード等の FeliCa 仕様の IC カードをセットした後、『次へ』ボタンを選択します。



デバイス機器(RC-S370/P)欄にチェックをし、『次へ』ボタンを選択します。



上の画面が表示され、リーダー／ライターとの通信及びカードとの通信で○が表示されていたら『完了』ボタンを選択し、動作確認を終了します。

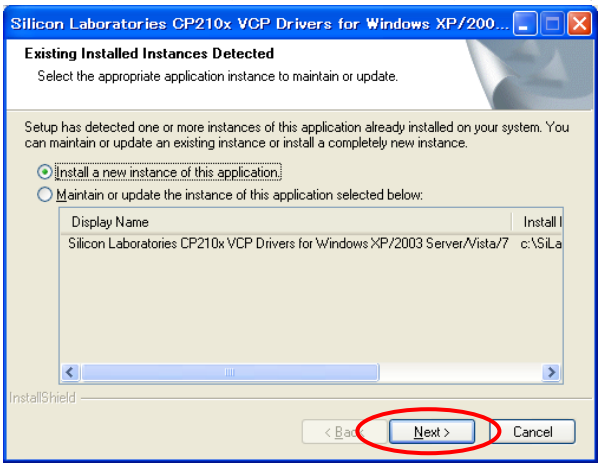
4.2 USB 運用時の設定方法について

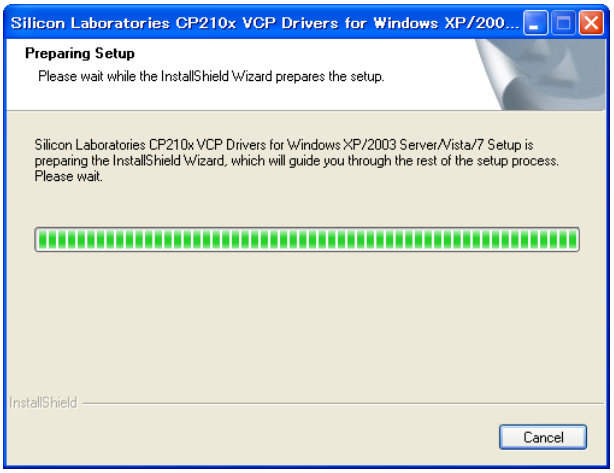
SECURAGE『制御セット』に同梱されているインストールCD-ROM媒体を利用するパソコンのCDドライブにセットします。

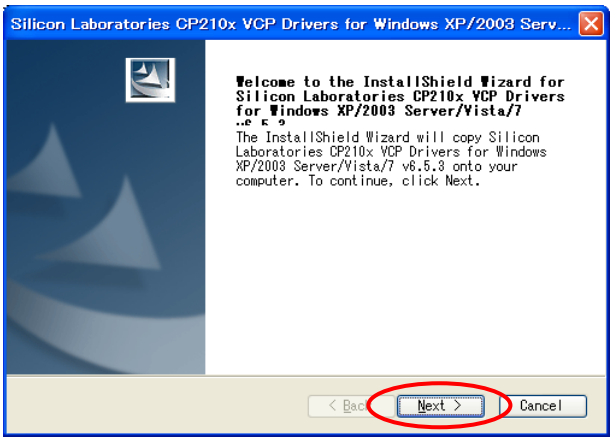
※他のアプリケーションを終了した後、作業を行ってください。

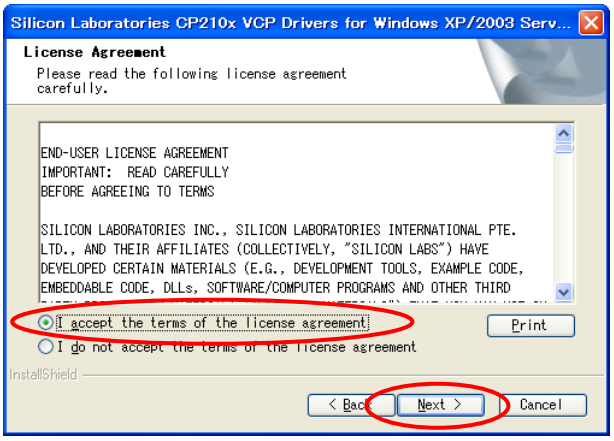
CP210x_VCP_Win_XP_S2K3_Vista_7.exeを実行します。OSやセキュリティの設定により、exe起動後にセキュリティの警告画面が表示される場合がありますが、そのまま実行してください。

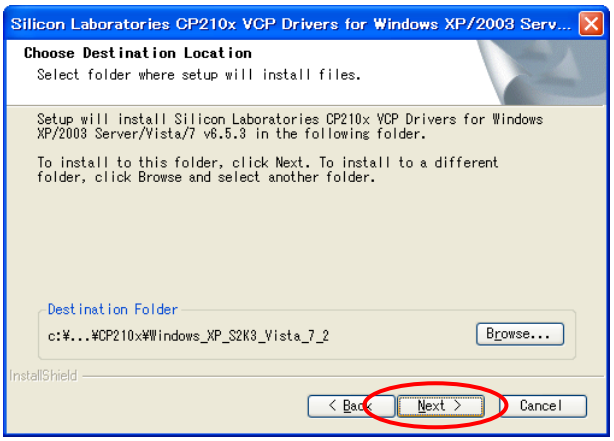
exeを起動すると下のような画面が表示されますので画面に従って操作して下さい。

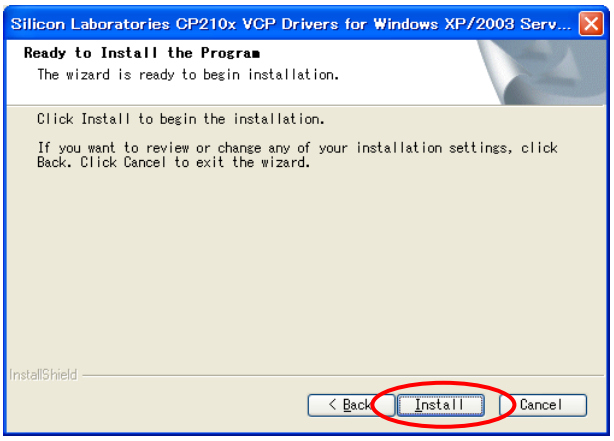


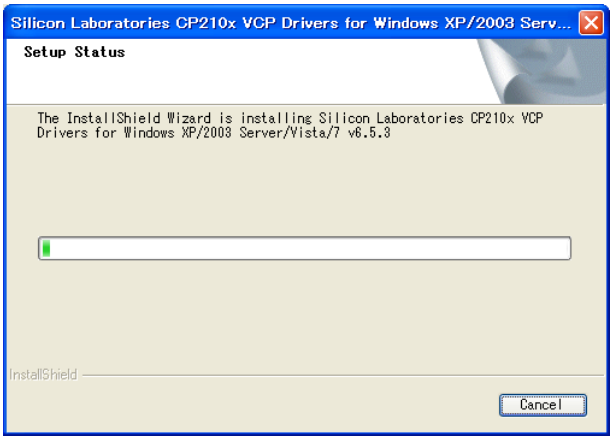




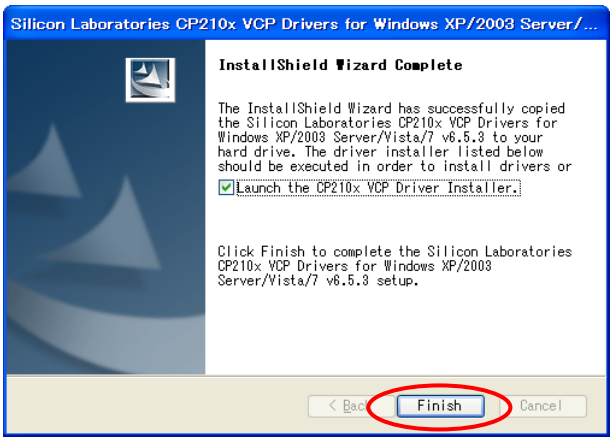

Silicon Laboratories CP210x VCP Drivers for Windows XP/2003 Serv...
License Agreement
Please read the following license agreement carefully.
END-USER LICENSE AGREEMENT
IMPORTANT: READ CAREFULLY
BEFORE AGREEING TO TERMS
SILICON LABORATORIES INC., SILICON LABORATORIES INTERNATIONAL PTE. LTD., AND THEIR AFFILIATES (COLLECTIVELY, "SILICON LABS") HAVE DEVELOPED CERTAIN MATERIALS (E.G., DEVELOPMENT TOOLS, EXAMPLE CODE, EMBEDDABLE CODE, DLLs, SOFTWARE/COMPUTER PROGRAMS AND OTHER THIRD
I accept the terms of the license agreement
I do not accept the terms of the license agreement
Print
InstallShield
< Back
Next >
Cancel


Silicon Laboratories CP210x VCP Drivers for Windows XP/2003 Serv...
Choose Destination Location
Select folder where setup will install files.
Setup will install Silicon Laboratories CP210x VCP Drivers for Windows XP/2003 Server/Vista/7 v6.5.3 in the following folder.
To install to this folder, click Next. To install to a different folder, click Browse and select another folder.
Destination Folder
c:¥...¥CP210x¥Windows_XP_S2K3_Vista_7_2
Browse...
InstallShield
< Back
Next >
Cancel


Silicon Laboratories CP210x VCP Drivers for Windows XP/2003 Serv...
Ready to Install the Program
The wizard is ready to begin installation.
Click Install to begin the installation.
If you want to review or change any of your installation settings, click Back. Click Cancel to exit the wizard.
InstallShield
< Back
Install
Cancel

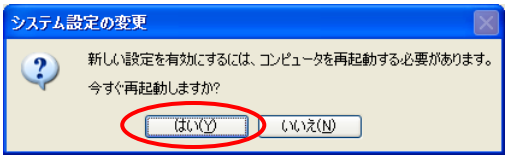

Silicon Laboratories CP210x VCP Drivers for Windows XP/2003 Serv...
Setup Status
The InstallShield Wizard is installing Silicon Laboratories CP210x VCP Drivers for Windows XP/2003 Server/Vista/7 v6.5.3
InstallShield
Cancel

インストールが正常に終了すると、下記画面が表示されます。



『Finish』ボタンを選択すると下の画面が表示されます。

『Install』ボタンを選択すると下の画面が表示されることがあります。



インストールが正常に終了すると上のようにコンピュータ再起動画面が表示されることがあります。再起動することでUSBドライバのソフトウェアインストールは完了します。ドライバが正常にインストールされているかパソコンとリーダ部をUSBケーブルで接続し、通信カードをリーダ部にかざした後、[デバイスマネージャ]画面にてドライバの状態を確認してください（画面については3項を参照ください）。場合によっては、新しいハードウェアの検出によりコンピュータ再起動画面が表示されることがあります。再起動画面が表示された場合、指示に従いコンピュータを再起動してください。
？マークがついている場合はドライバの更新ボタンを操作することで正常に更新されます。
以上で終了です。

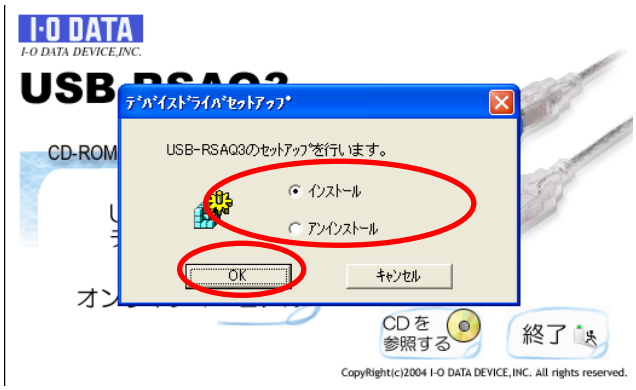
4.3 赤外線ユニット使用時の設定方法について（ログ収集／利用者登録を赤外線ユニットにて行う場合に必要）

SECURAGE シリーズにて赤外線運用する場合、別途手配しました『赤外線ユニット（商品コード：6-655-0476 旧タイプ）』に同梱されている 2 つの箱のうち、USB-シリアル変換インターフェイス（『USB-RSAQ3 又は 5 注1』）を開梱し添付のインストール CD-ROM 媒体を利用するパソコンの CD ドライブにセットします。

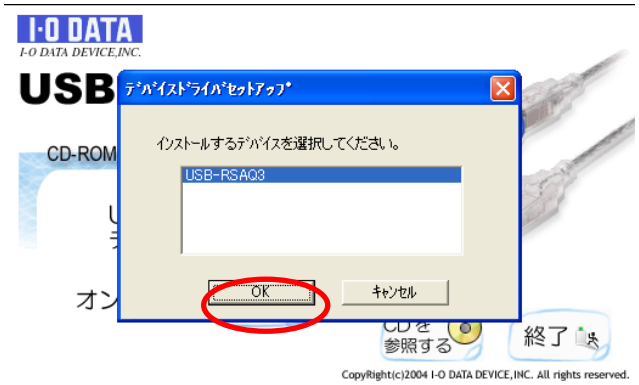
※ ACTiSYS に同梱されている CD 媒体はインストール不要です。万が一、インストールした場合には必ず削除してください。
※ 他のアプリケーションを終了した後、作業を行ってください。
※ USB-シリアル変換インターフェイス（USB-RSAQ3 又は 5 注1）に添付されているセットアップガイドの内容もあわせて確認して下さい。

注 1）メーカの製品切り替えに伴い、2008 年出荷分から『USB-RSAQ3』→『USB-RSAQ5』に製品変更されています。ただし、設定及び機能については『USB-USAQ3』と『USB-RSAQ5』は同様です。以降についても異なった名称で説明している『USB-USAQ3』と『USB-RSAQ5』は同様のものとお読みください。

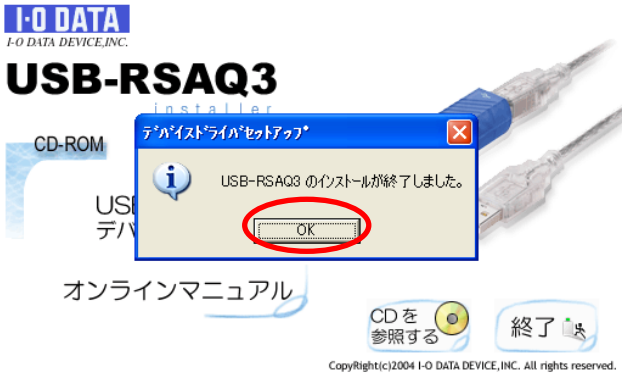
CD-ROM 媒体をセットすると上記画面に表示されます。『USB-RSAQ3 デバイスドライバ』ボタンを選択します。上記画面が表示されない場合、「マイコンピュータ」→CD-ROM ドライブが割り当てられているドライブの選択→「AUTORUN」を選択すると画面が表示されます。



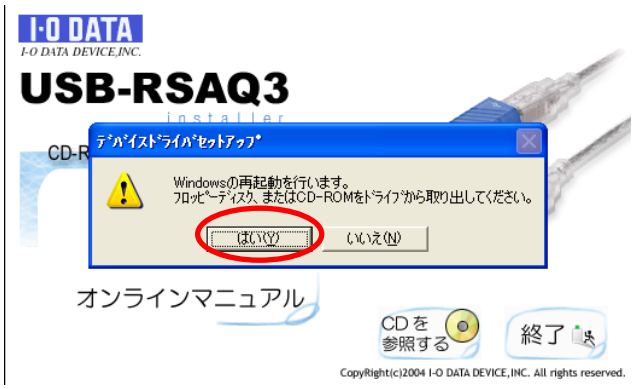
「インストール」にチェックが付いていることを確認し、『OK』ボタンを選択します。



USB-RSAQ3 が選択されていることを確認し、『OK』ボタンを選択します。

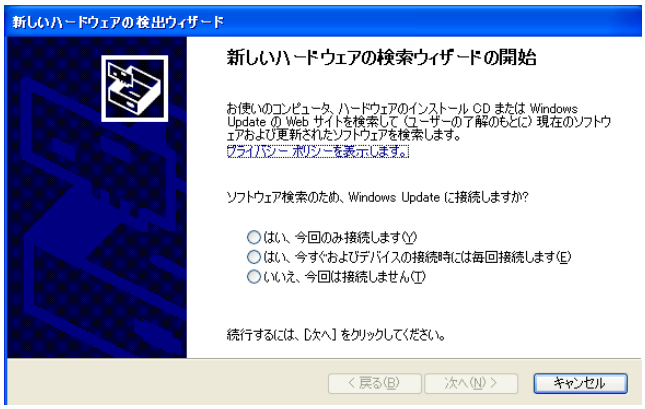


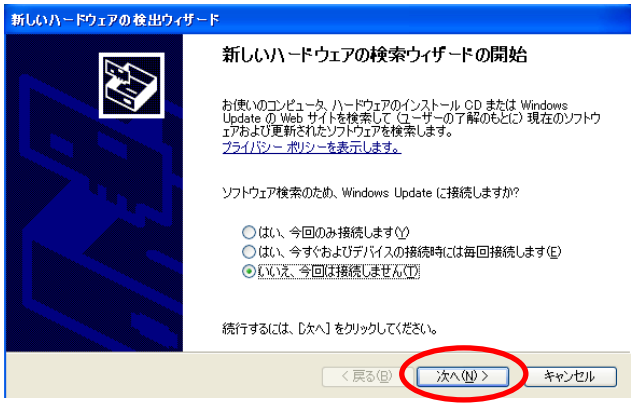
上記画面が表示されるとドライバのインストールは完了です。『OK』ボタンを選択します。



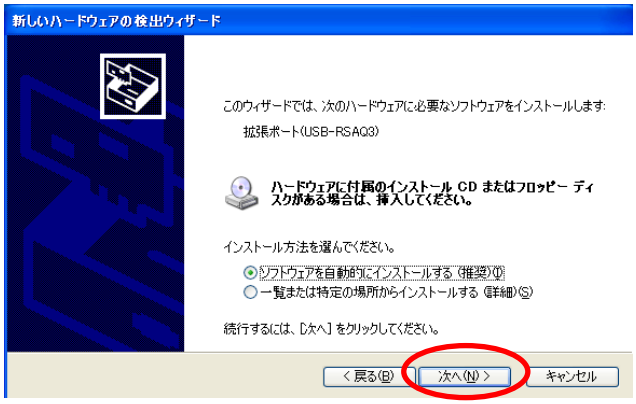
CD-ROM 媒体を取り出した後、『はい』を選択するとコンピュータが再起動されます。

コンピュータを再起動した後、USB-シリアル変換インターフェイスをパソコン本体の USB ポートに接続します。

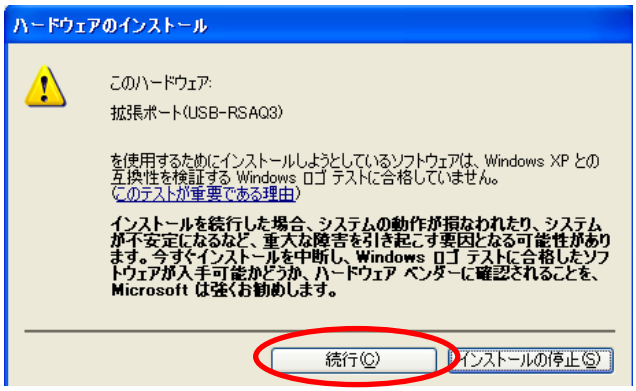




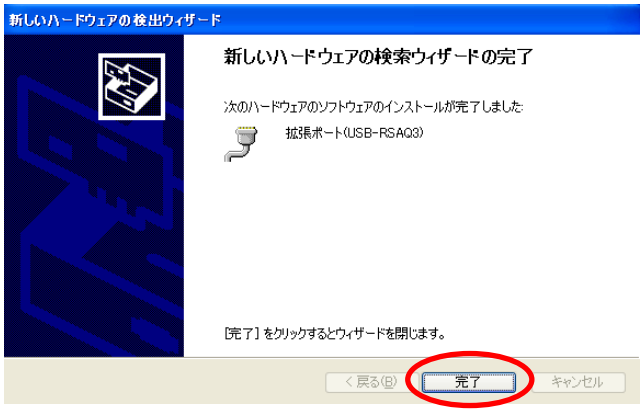
上記画面が表示された場合、『いいえ、今回は接続しません』を選択します。



USB-シリアル変換インターフェイスをパソコンの USB ポートに接続すると、上記画面が表示されます。『ソフトウェアを自動的にインストールする』にチェックがついていることを確認し、『次へ』ボタンを選択します。



上記画面が表示されますので『続行』ボタンを選択します。



『完了』ボタンを選択してドライバのインストール作業は終了です。

USB-シリアル変換インターフェイスをパソコン本体の以前に接続した USB ポートと異なるポートに接続した場合には再度、下記画面が表示されます。(USB ケーブルを接続するポートは同一の箇所を推奨)。
その場合、前ページからのインストール手順を参照して下さい。

4.4 MICROSOFT .NET FRAMEWORK 2.0 のインストール（インストールされていない場合、行ってください）

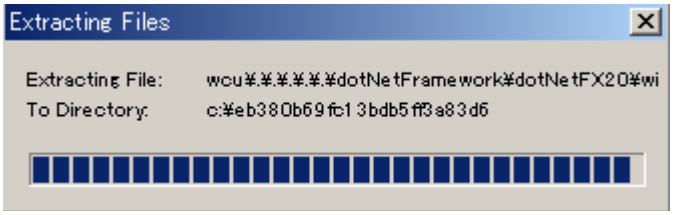
SECURAGEソフトウェアを正常に動作させるためには、.NET FRAMEWORK 2.0がインストールされている必要があります。使用するパソコンのコントロールパネルにて.NET FRAMEWORK 2.0の有無を確認し、インストールされていない場合、以下の手順にてソフトウェアのインストールを行ってください。

注）以下の手順は.NET FRAMEWORK2.0～3.5のいずれもインストールされていない、Windows XPの端末での作業手順です。
Windows Vistaは.NET FRAMEWORK 2.5～3.0、Windows 7は.NET FRAMEWORK 3.5がインストールされています。
コントロールパネル→プログラムと機能→Windowsの機能の有効化または無効化をクリックして表示される画面で、
「Microsoft .NET FRAMEWORK *.*.*」(*はOSによって異なる数字)のチェックボックスのチェックボックスを確認します。
チェックがついていない場合、クリックしてチェックをつけ、「OK」ボタンをクリックすると.NET FRAMEWORKが有効になります。

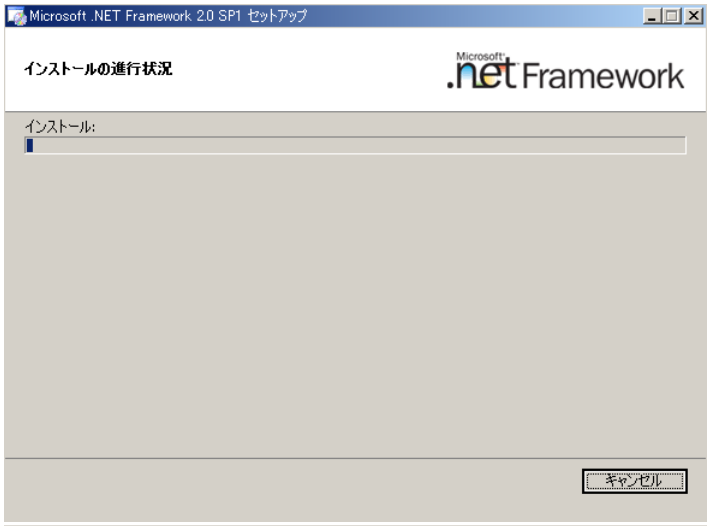
1) .NET Framework 2.0 Service Pack 1 (x86)のインストール
SECURAGE『制御セット』に同梱されているインストールCD-ROM媒体を利用するパソコンのCDドライブにセットします。

※他のアプリケーションを終了した後、作業を行ってください。

NetFx20SP1_x86.exeを実行します。
exeを起動すると下のような画面が表示されますので画面に従って操作して下さい。



しばらくすると下の画面が表示されます。必要事項を確認いただき、「同意する」にチェックを入れ、『インストール』ボタンを選択してください。

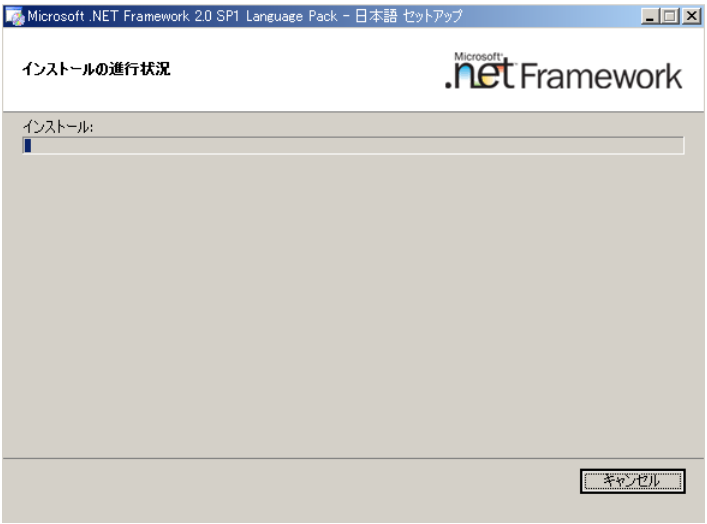


以上で終了です。

2) .NET Framework 2.0 Service Pack 1 (x86) 日本語 Language Packのインストール
SECURAGE『制御セット』に同梱されているインストールCD-ROM媒体を利用するパソコンのCDドライブにセットします。

※他のアプリケーションを終了した後、作業を行ってください。

NetFx20SP1_x86ja.exeを実行します。
exeを起動すると下のような画面が表示されますので画面に従って操作して下さい

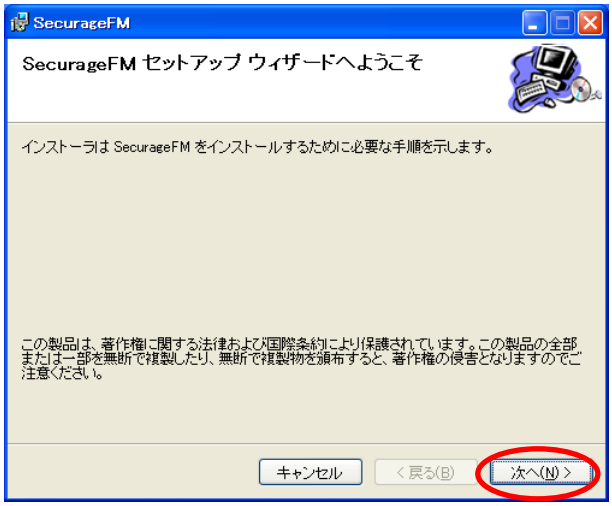

Microsoft .NET Framework 2.0 SP1 Language Pack - 日本語 セットアップ
インストールの進行状況
Microsoft .net Framework
インストール:
キャンセル

Microsoft .NET Framework 2.0 SP1 Language Pack - 日本語 セットアップ
セットアップが完了しました
Microsoft .net Framework
Microsoft .NET Framework 2.0 SP1 Language Pack - 日本語 が正常にインストールされました。
この製品用の最新の Service Pack およびセキュリティ更新プログラムをダウンロードしてインストールすることを強くお勧めします。
詳細については、以下の Web サイトを参照してください: Windows Update
終了(X)

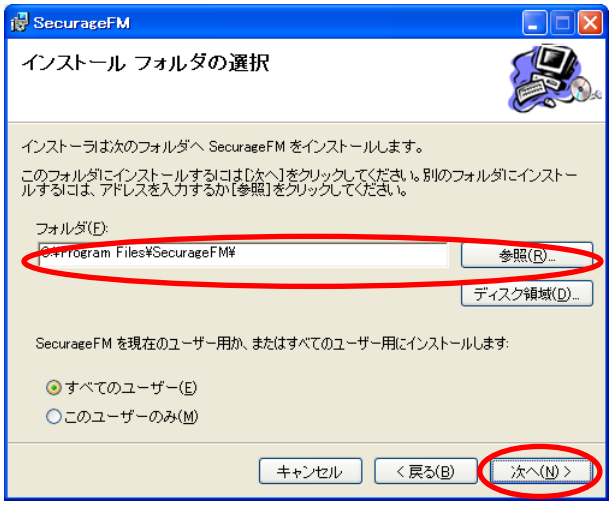
以上で終了です。

4.5 SECURAGE ソフトウェアのインストール（必ず行ってください）

SECURAGE『制御セット』に同梱されているインストール CD-ROM 媒体(ログ収集プログラム)を利用するパソコンの CD ドライブにセットします。CD 媒体中の SecureStorageSetup.msi を実行すると下の画面が起動されます。
または、Web ブラウザから弊社ホームページの「サポート・お問合せ」(URL:http://www.uchida.co.jp/support/)からインストーラー(SecureStorageSetup.msi)をダウンロードした後、実行することでも下の画面が起動されます。
※他のアプリケーションを終了した後、作業を行ってください。



『次へ』ボタンを選択します。



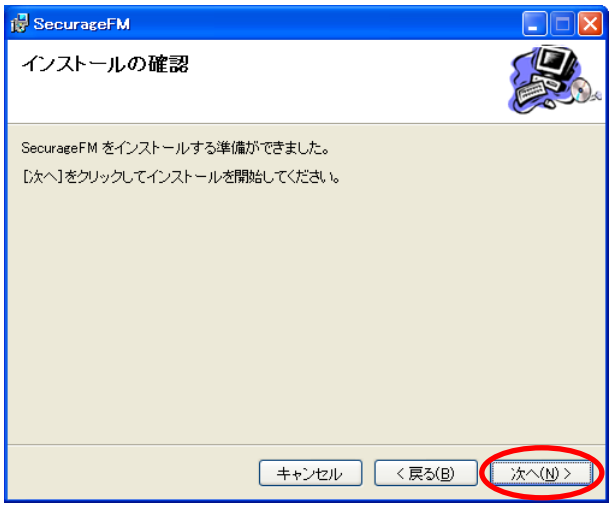
ソフトウェアの格納先を選択します。初期値で問題なければ『次へ』ボタンを選択します。

注)Windows Vista・Windows 7 では、インストール先が「Program Files」フォルダ、かつ Windows のユーザーアカウント制御(UAC)が有効の場合、プログラムが正常に動作しません。以下のいずれかで問題の回避が可能です。

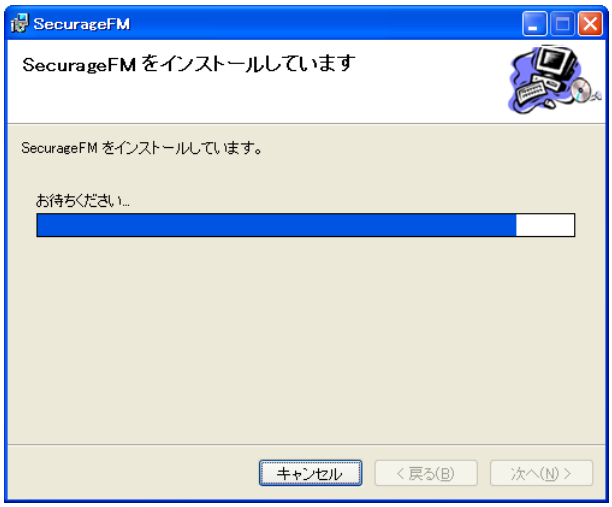
A)「Program Files」フォルダ以下にインストールしない

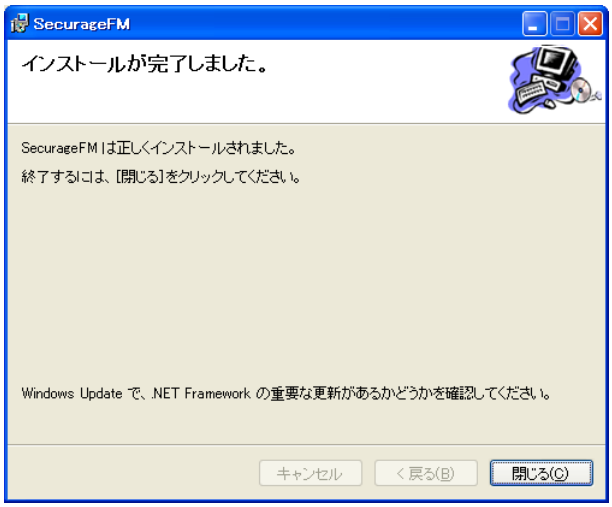
B)UAC を無効にする

画面に表示されているソフトウェアの格納先を確認し、『次へ』ボタンを選択します。



『次へ』ボタンを選択します。





『閉じる』ボタンを選択します。

以上でSECURAGEソフトウェアのインストールは完了です。

第５章　ソフトウェアの利用方法

【お願い】運用を始める前に
以前のバージョンの SECURAGE ログ収集ソフトをインストールした PC(旧端末)とは別の PC(新端末)に SECURAGE FM ログ収集ソフトをインストールしデータ移行を行う場合、以下の手順を行ってからデータ移行を行ってください。

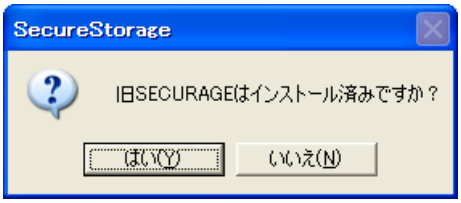
・旧端末から以下の2つのフォルダを新端末にコピーする。
①SECURAGE ログ収集ソフトのインストールフォルダ(デフォルトの場合 C:¥Program Files¥SECURAGE)
②SECURAGE ログ収集ソフトのログフォルダ(デフォルトの場合 C:¥SecureLog)
※①のコピー先はデスクトップ等でも問題ありませんが、②のコピー先は①のフォルダ内にある SecureStorage.ini の「DefaultDir」で指定されたパスに配置しないとデータ移行が正常に行われない可能性があります。②のコピー先を変更した場合、SecureStorage.ini の「DefaultDir」のパスを②のコピー先に変更してください。
**注) Windows Vista・Windows 7 で「Program Files」フォルダにコピーする場合、エラーが発生する可能性があります。
その場合「Program Files」フォルダ以外にコピーを行ってください。**

・新端末にコピーした①②のフォルダにアクセス権限を与える。
①②のフォルダにアクセス権限がない場合、データ移行でエラーが発生する可能性があります。

また SECURAGE のカード読み取り部には時計を内蔵しています。**運用を開始する前及び電池交換した際には、必ず時刻設定をするようにお願いします。**操作方法については、「5.8 時刻設定タブ」をご覧ください。

5.1 初回起動

SECURAGE インストール後の初回起動時のみ、SECURAGE ソフトウェアを起動すると下の確認メッセージが表示されます。

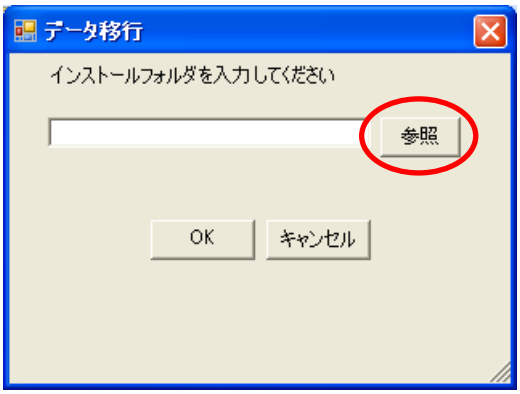


以前のバージョンの SECURAGE がインストール済みの場合は『はい』を選択してください。
『はい』を選択すると下のデータ移行画面が表示されます。

以前のバージョンの SECURAGE がインストール済みでない場合は『いいえ』を選択してください。
『いいえ』を選択するとログイン画面が表示されます。

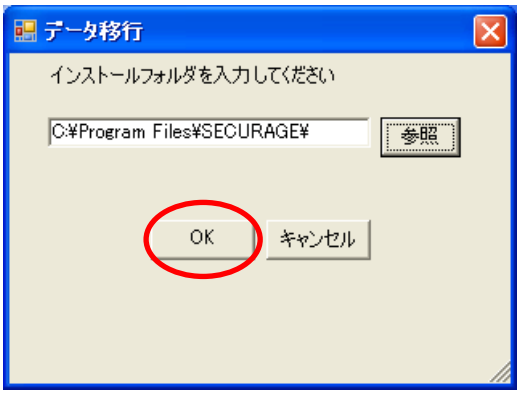
【データ移行を行う場合】

データ移行の際、移行元のデータが手作業による編集等により破損・重複していた場合データ移行が正常に終了しないことがございます。必ずバックアップをお取りください。
また、複数のデータファイルの移行はデータが重複するケースがありますのでおやめください。



『参照』ボタンを選択して以前のバージョンの SECURAGE がインストールされているディレクトリを選択します。
(通常は、C:¥Program Files¥SECURAGE に格納)

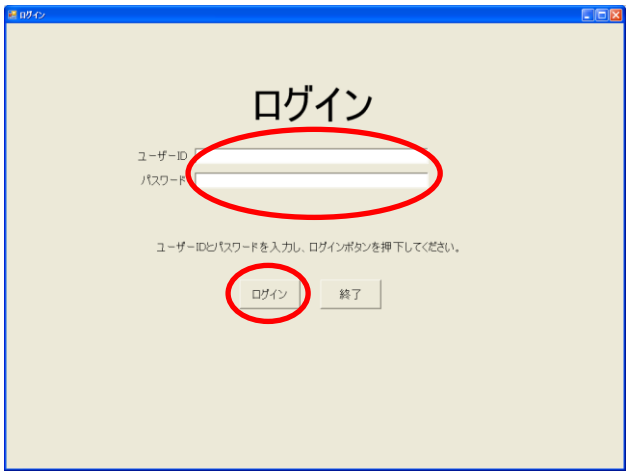
※データ移行を行わない場合は『キャンセル』ボタンを選択してください。データ移行を行わず、ログイン画面が表示されます。



ディレクトリを選択したら『OK』ボタンを選択します。

データ移行が正常に完了すると上のメッセージが表示され、『OK』を選択するとログイン画面が表示されます。

5.2 ログインしたいとき

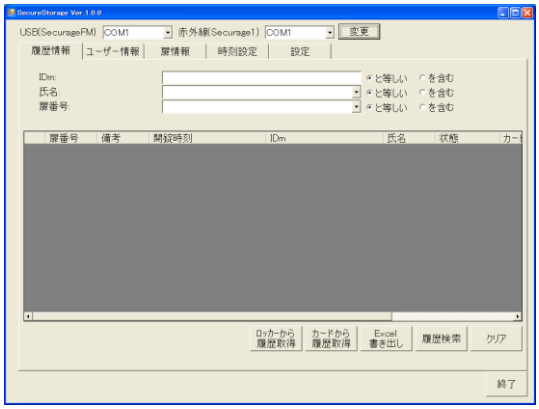


ユーザ ID／パスワードは管理者情報で設定します。
管理者情報の詳細については、「5.2 設定タブ」を参照して下さい。
※ 管理者情報の初期設定内容について
以下のユーザ ID／パスワードを初期設定として登録しています。

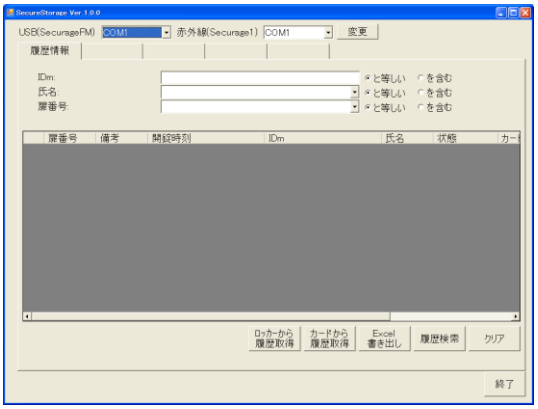
- 管理者　ユーザ ID：admin　パスワード：securage
- 一般利用者　ユーザ ID：user　パスワード：securage

ログインが正常に完了した場合、下のメニュー画面が表示されます。
尚、ログインした ID の権限（管理者、一般利用者）により表示される画面（項目）が異なります。

【タイプ A】
管理者権限でログインした場合のメニュー画面



【タイプ B】
一般利用者権限でログインした場合のメニュー画面

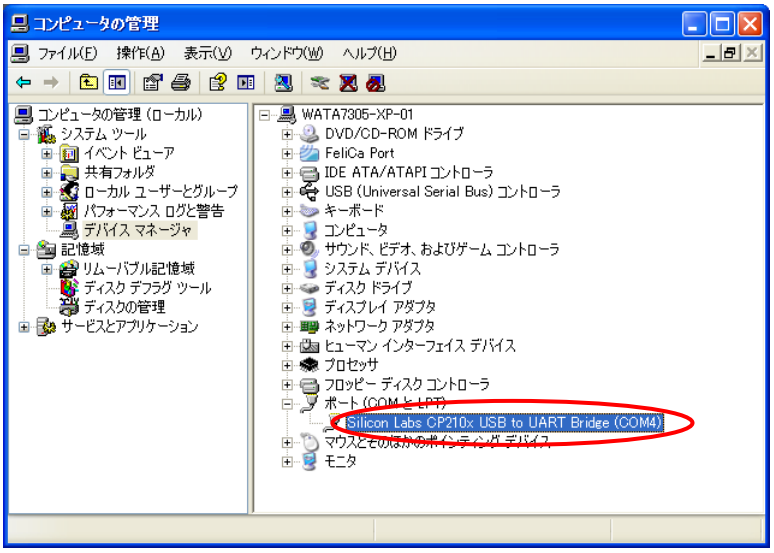


以降、各機能について運用（カード／USB 通信／赤外線）にあわせた説明をします。

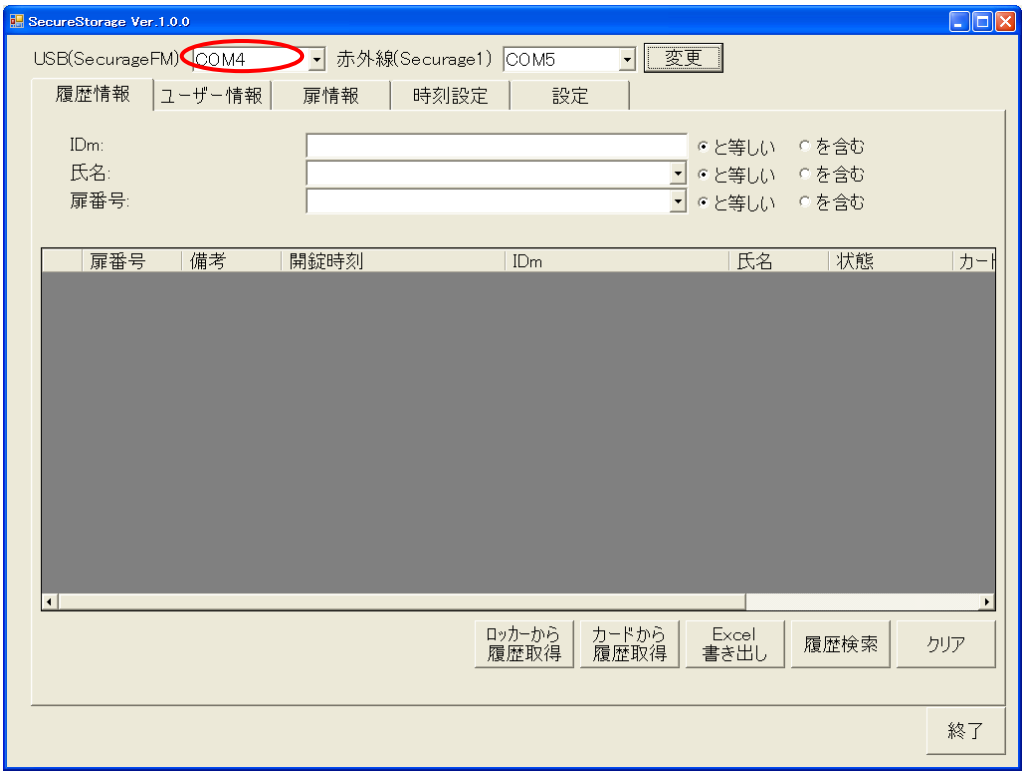
5.3 COM ポートの確認(ログ収集／利用者登録を USB 通信にて行う場合に必要)

※ COM ポートの確認・変更は、いずれの OS でもデバイスマネージャを使用します。
デバイスマネージャの起動方法は OS の種類・設定等で異なりますが、『スタート』－『コントロールパネル』－『システム関係メニュー(“システム”や“システムとセキュリティ”)』で表示される画面で画面で『デバイスマネージャ』を選択する方法と、『スタート』－『コンピュータ(右クリック)』－『プロパティ』で表示される画面で『デバイスマネージャ』を選択する方法があります。

アプリケーション操作前に設定ファイルを確認してください。USBケーブルを利用するPC及びリーダライタ(R/W)部に接続し、[デバイスマネージャ]－[ポート(COMとLPT)]画面にてCP210x USBの仮想COM番号を確認してください。
USBドライバ(CP210x USB)がお使いのパソコンにインストールされていない場合、「4.3 USBドライバのインストール」を先に操作してください。



SECURAGEソフトウェアを起動し、メインメニューの下記項目にプルダウンメニューより上記と同じCOMポートを選択してください。

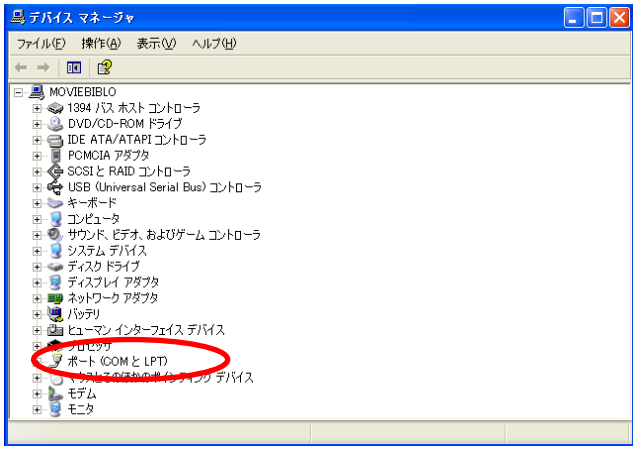


COMポートの設定が異なる場合、STS=17のエラーとなります。

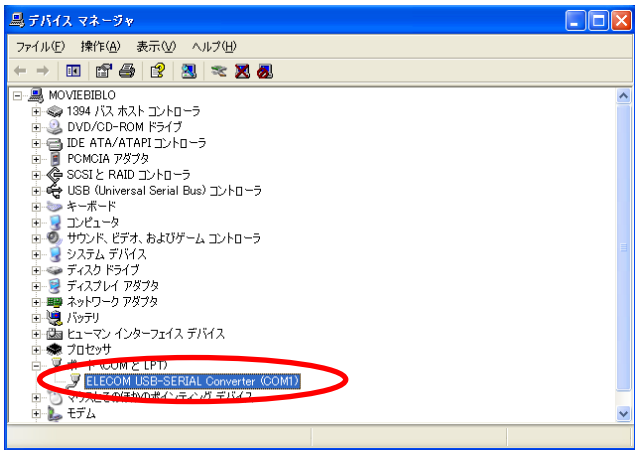
赤外線ユニット使用時のCOMポート設定について（ログ収集／利用者登録を赤外線ユニットにて行う場合に必要）

※ 以下の設定を行う前に、必ず、USB-シリアル変換インターフェイス（USB-RSAQ3 又は 5）がパソコンに接続されていることを確認して下さい。

※ COM ポートの確認・変更は、いずれの OS でもデバイスマネージャを使用します。
デバイスマネージャの起動方法は OS の種類・設定等で異なりますが、『スタート』－『コントロールパネル』－『システム関係メニュー（“システム”や“システムとセキュリティ”）』で表示される画面で画面で『デバイスマネージャ』を選択する方法と、『スタート』－『コンピュータ(右クリック)』－『プロパティ』で表示される画面で『デバイスマネージャ』を選択する方法があります。

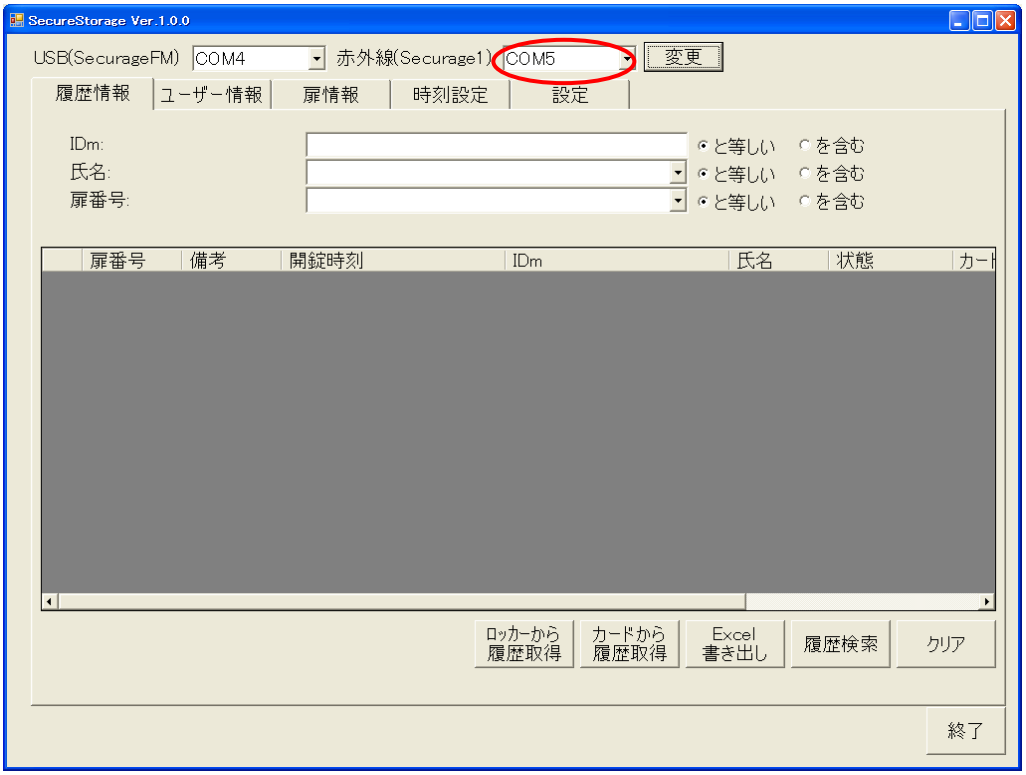


『ポート（COM と LPT）』を選択します。



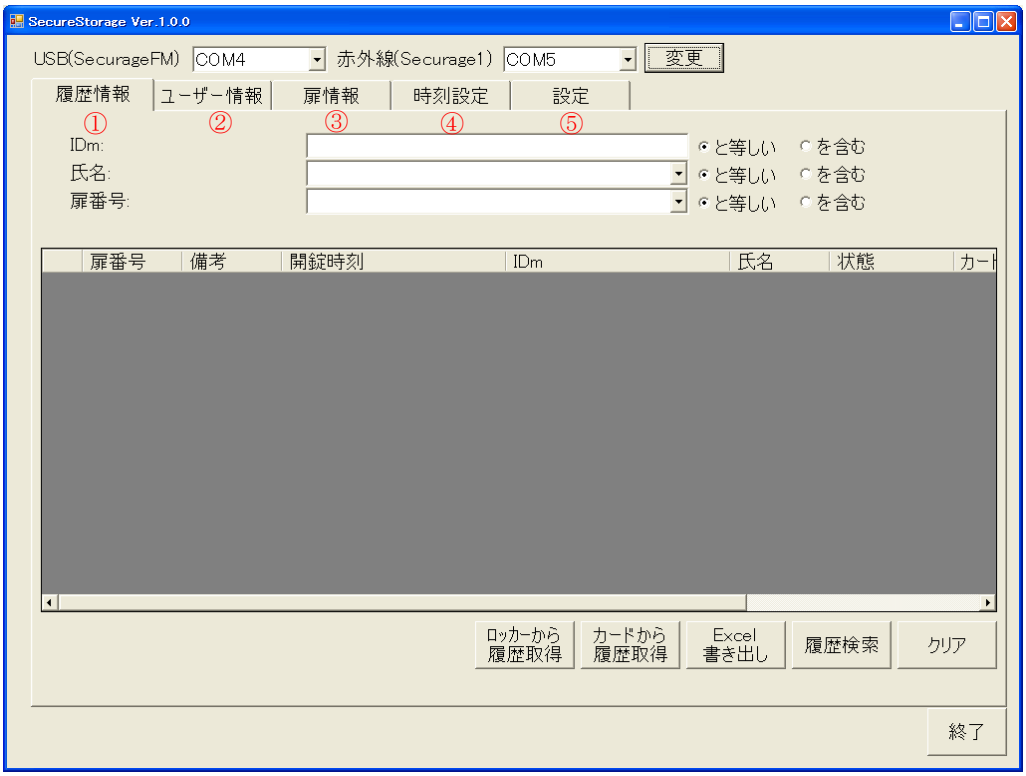
『ELECOM USB-SERIAL』を選択し、COM ポート番号を確認します。

SECURAGEソフトウェアを起動し、メインメニューの下記項目にプルダウンメニューより上記と同じCOMポート番号を選択してください。



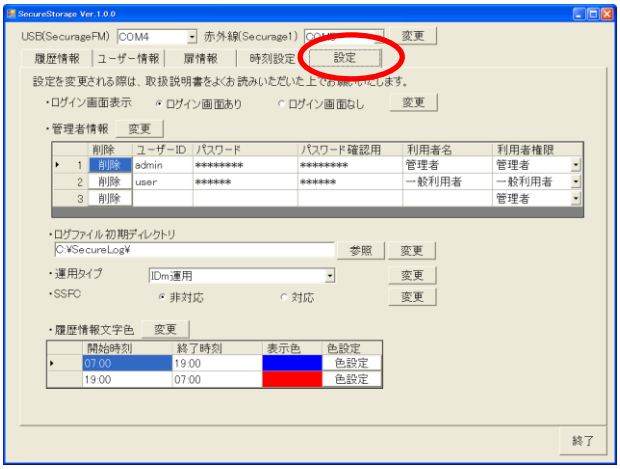
COMポートの設定が異なる場合、STS=17のエラーとなります。

SECURAGE ソフトウェア概要



①履歴情報タブ	②ユーザー情報タブ	③扉情報タブ	④時刻設定タブ	⑤設定タブ
R/W から ・ 開錠履歴を取る 時に使用 主に R/W との通信に関係する項目 詳細は 5.4 履歴情報タブからを参照(P52) ログカード及び、赤外線通信・USB 通信時に使用します。	管理ソフト側にユーザーデータを ・ 登録 ・ 修正 時に使用 主にソフトウェアのユーザーデータに関係する項目 詳細は 5.5 ユーザー情報タブからを参照(P54) 赤外線通信・USB 通信時に使用します。	PC に扉情報を ・ 登録 ・ 修正 リーダライタ(R/W)に ・ 利用者を登録する リーダライタ(R/W)から ・ 利用者を抽出する 時に使用 主にリーダライタ(R/W)との通信、ソフトウェアの扉情報に関係する項目 詳細は 5.6 扉情報タブからを参照(P61) 赤外線通信・USB 通信時に使用します	R/W に ・ 時刻を設定する 時に使用 主に R/W との通信に関係する項目 詳細は 5.7 時刻設定タブからを参照(P70) 赤外線通信・USB 通信時に使用します。	管理ソフト側に各種設定を ・ 登録 ・ 修正 時に使用 主にソフトウェアの管理、設定情報に関係する項目 詳細は 5.3 設定タブからを参照(P44) 赤外線通信・USB 通信時に使用します。

5.4 各種設定を変更したいとき（管理者権限でログインした時のみ）

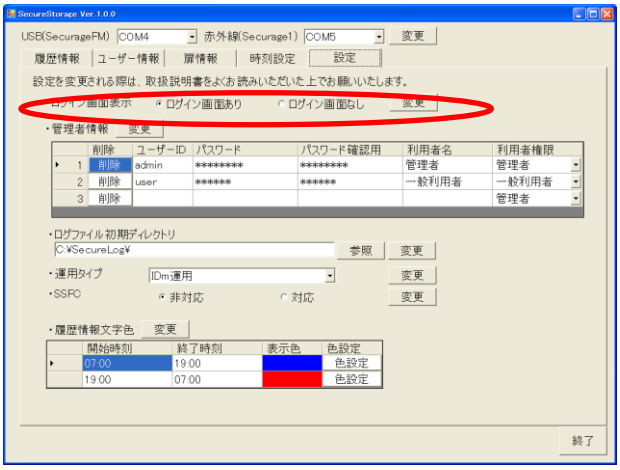


『設定』タブを選択します。

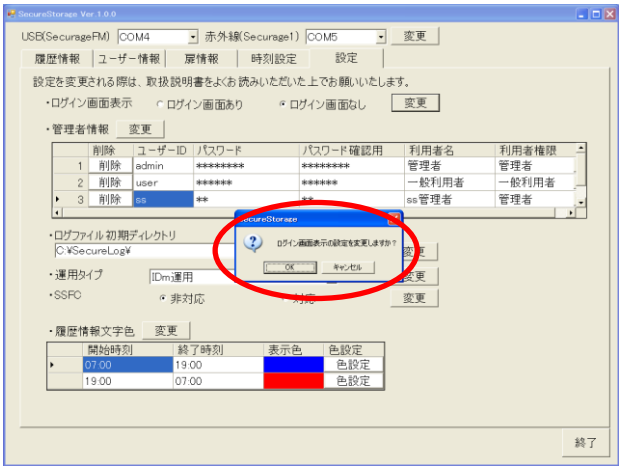
※　管理者情報の初期設定内容について
SECURAGE ソフトウェアをインストールした場合、以下のユーザ ID／パスワードを初期設定として登録しています。
管理者用 ID でログイン後、お客様の運用環境にあわせたユーザ ID 及びパスワードに変更又は新規作成するようお願いします。

- 管理者　ユーザ ID：admin　パスワード：securage
- 一般利用者　ユーザ ID：user　パスワード：securage

【ログイン画面表示を変更する場合】

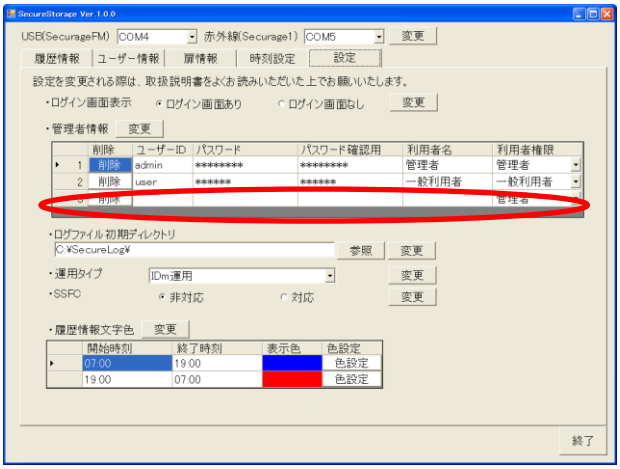


SECURAGE ソフトウェアを起動時、ログイン画面を表示させる場合はログイン画面ありをチェック、
ログイン画面を表示させない場合はログイン画面なしをチェックして『変更』ボタンを選択します。

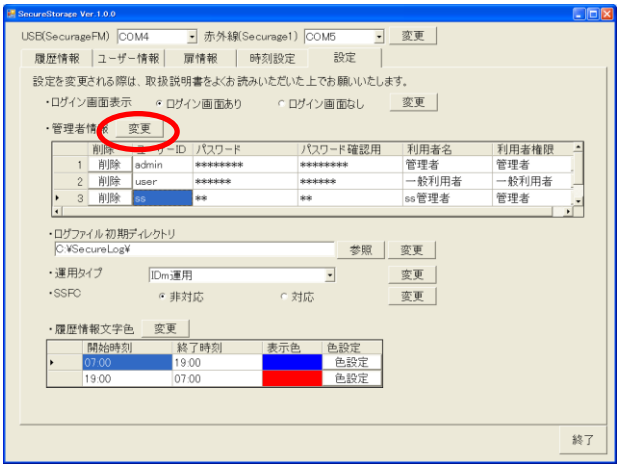


確認メッセージが表示されるので入力内容を確認し、問題なければ『OK』ボタンを選択します。

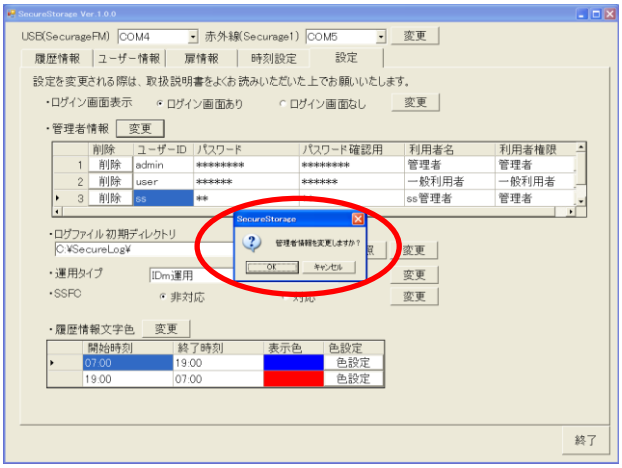
【管理者を新規登録する場合】



上記の赤枠で囲まれた新規行に登録するユーザーID／パスワード（2 回入力してください）／表示用として利用する利用者名を入力します。利用者権限にて“管理者”または“一般利用者”のどちらかを選択します。
（権限により表示されるメニューが異なります）

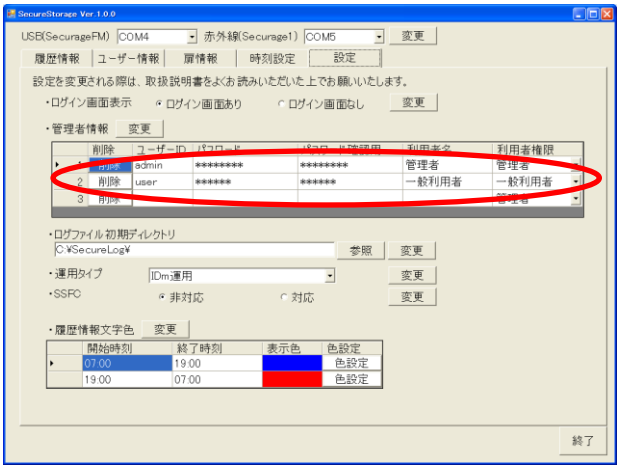


入力が完了したら『変更』ボタンを選択します。

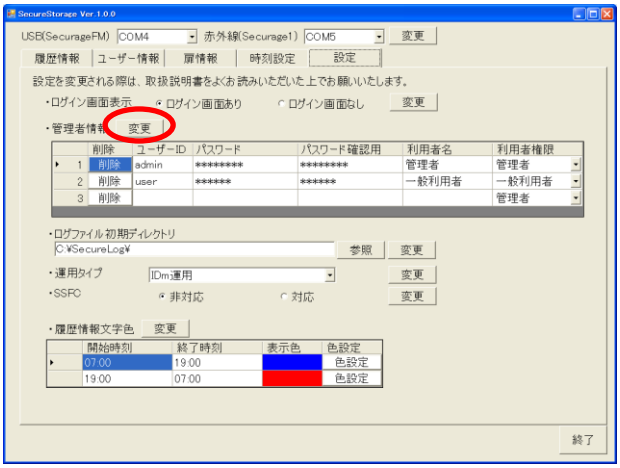


確認メッセージが表示されるので入力内容を確認し、問題なければ『OK』ボタンを選択します。

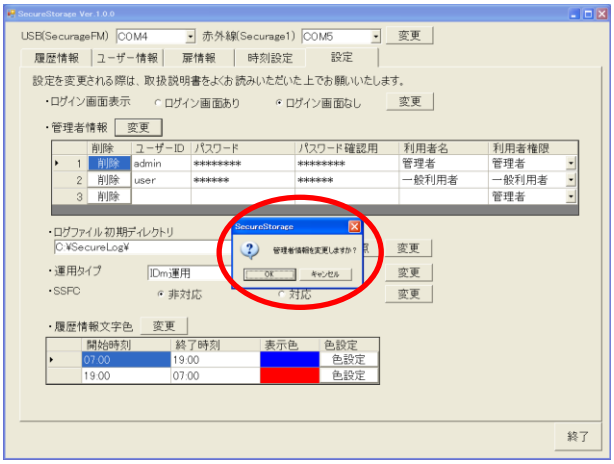
【管理者情報を修正(変更)する場合】



既に登録されている管理者情報の該当の項目について修正(変更)します。
※ユーザ ID は修正できません。この場合、該当のユーザ ID を削除した後、新規にユーザ ID を作成して下さい。

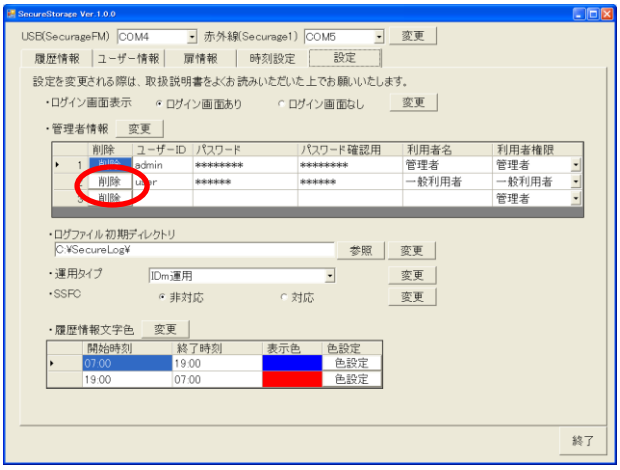


修正が完了したら『変更』ボタンを選択します。

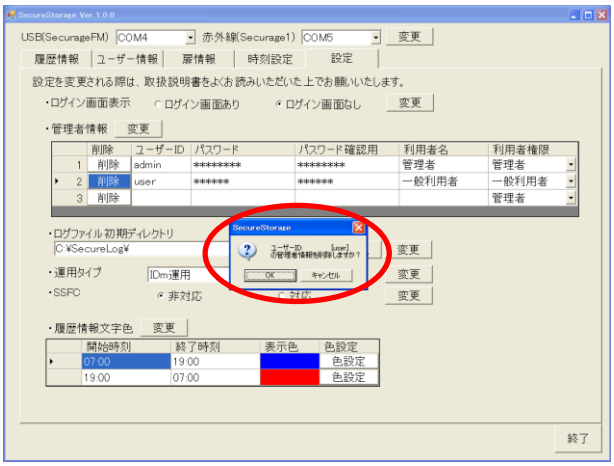


確認メッセージが表示されるので入力内容を確認し、問題なければ『OK』ボタンを選択します。

【管理者情報を削除する場合】

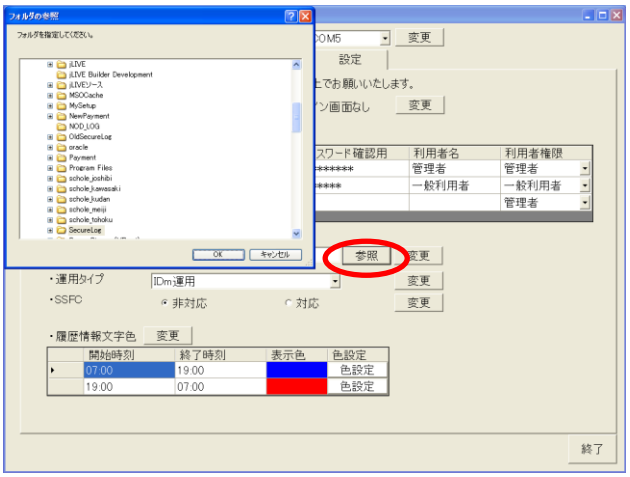


削除したい行の『削除』ボタンを選択します。

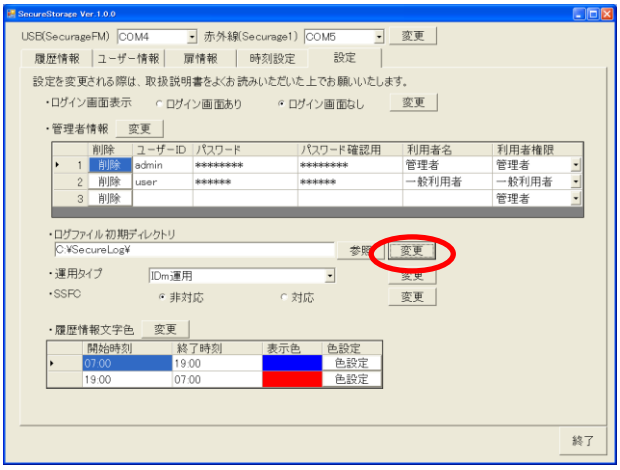


確認メッセージが表示されるので、該当 ID を削除して構わなければ『OK』を選択して下さい。

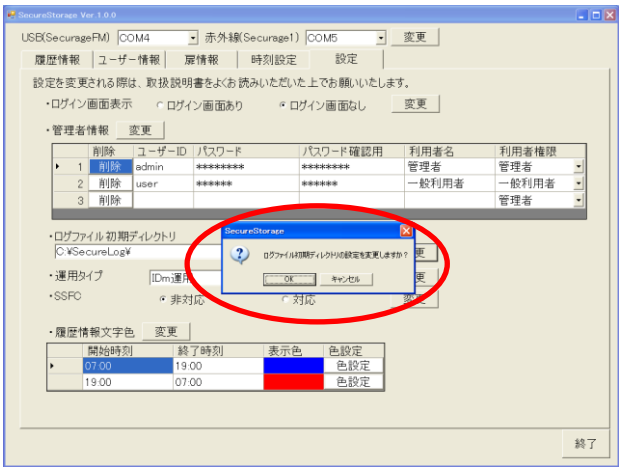
【ログファイル初期ディレクトリを変更する場合】



『参照』ボタンを選択して変更したいディレクトリを選択します。

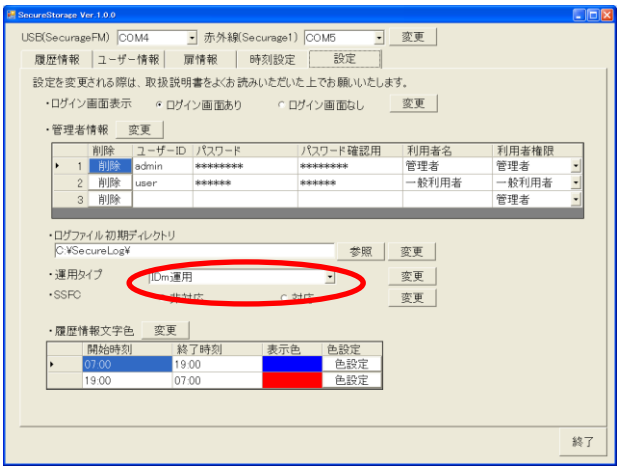


パスを選択したら『変更』ボタンを押下します。

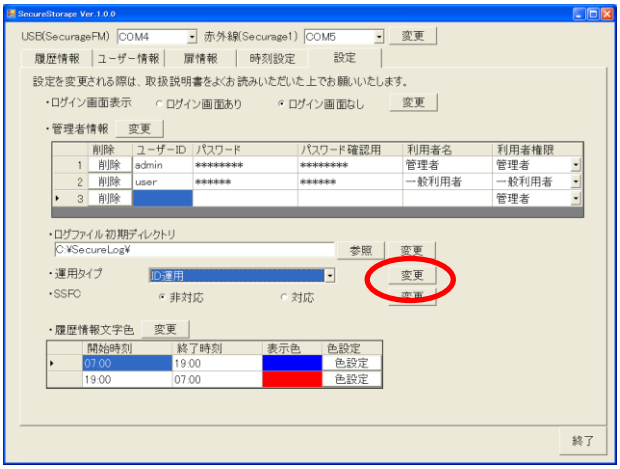


確認メッセージが表示されるので入力内容を確認し、問題なければ『OK』ボタンを選択します。

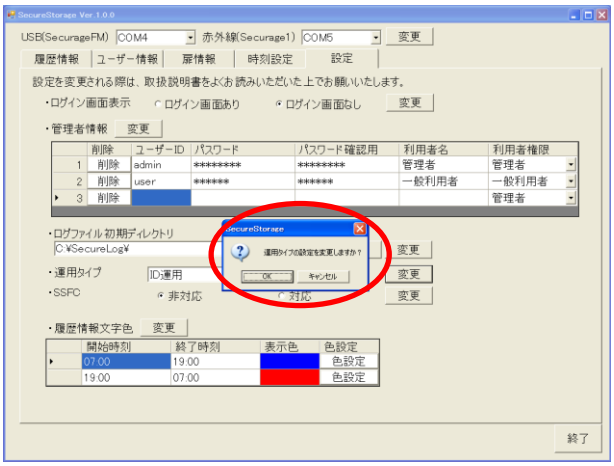
【運用タイプを変更する場合】※お使いの IC カード規格が変更した場合、設定変更をして下さい。



変更したい運用タイプを選択します。

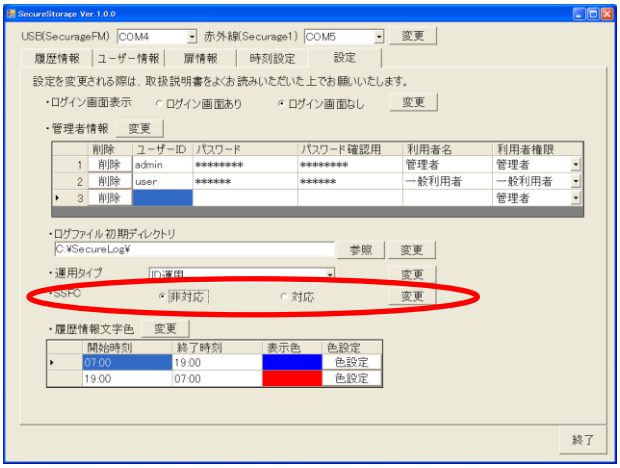


変更が完了したら『変更』ボタンを選択します。

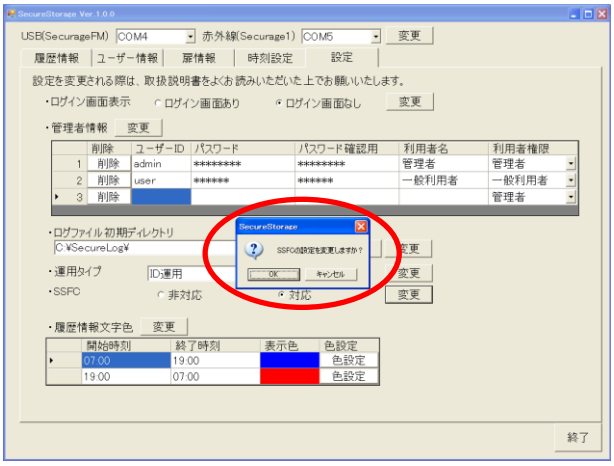


確認メッセージが表示されるので入力内容を確認し、問題なければ『OK』ボタンを選択します。

【SSFC 対応 / 非対応 を変更する場合】※Felica カスタム ID 運用時のみ設定して下さい。通常は「非対応」にて運用。

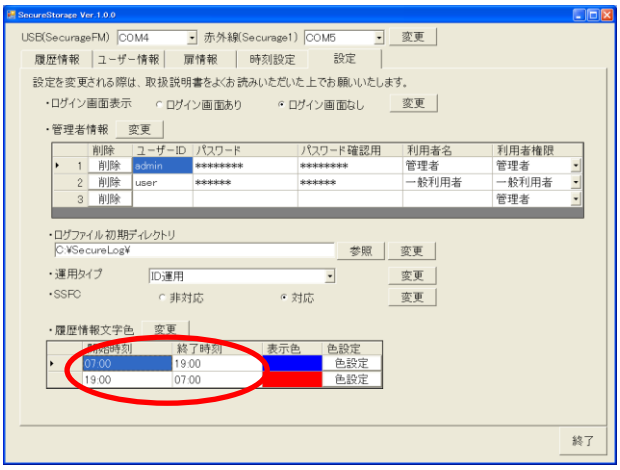


SSFC 対応の場合は対応をチェック、SSFC 非対応の場合は非対応をチェックして『変更』ボタンを選択します。

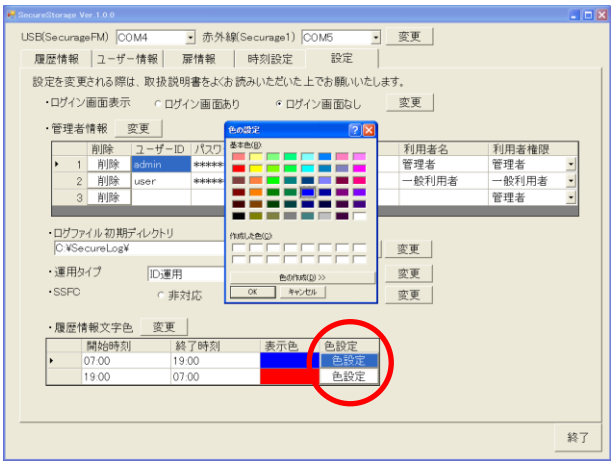


確認メッセージが表示されるので選択内容を確認し、問題なければ『OK』ボタンを選択します。

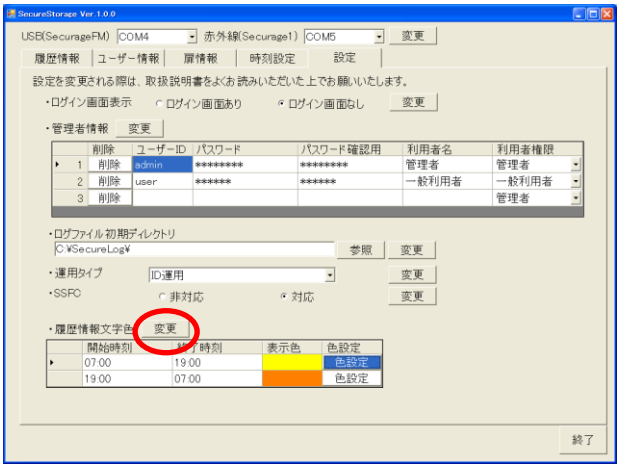
【履歴情報文字色を変更する場合】
(デフォルトでは、履歴情報タブで開錠時刻が 7:00～19:00 の場合は文字色が青、19:00～7:00 の場合は文字色が赤になります。この時刻範囲・文字色を変更する機能です。)



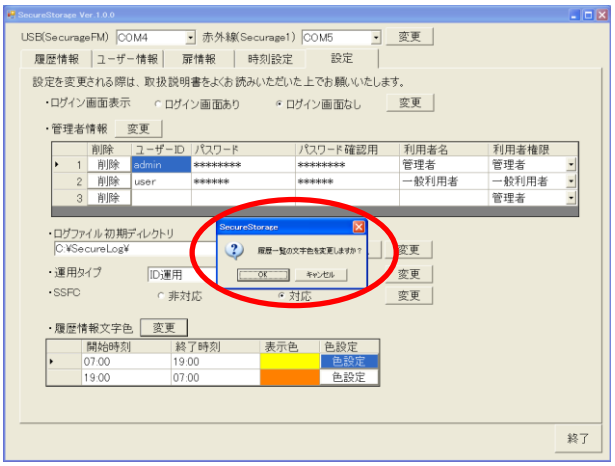
開始時間、終了時間に 00:00～23:59(24H 表記)を入力します。



『色設定』ボタンを選択して変更したい文字色を選択します。



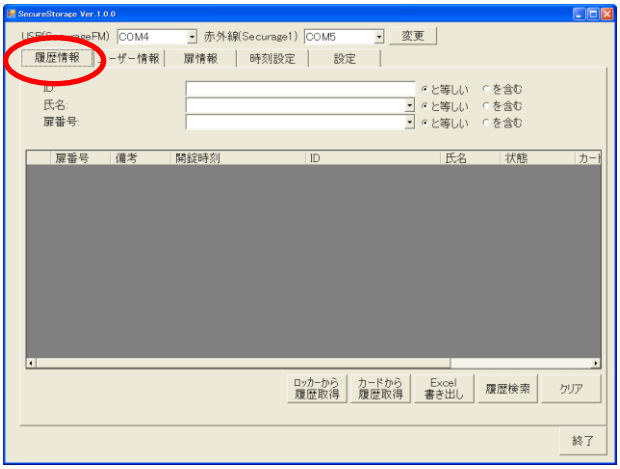
変更が完了したら『変更』ボタンを選択します



確認メッセージが表示されるので入力内容を確認し、問題なければ『OK』ボタンを選択します。

5.5 履歴情報を閲覧・取得したいとき

扉番号に何も表示されていない、もしくは登録したい扉番号が無い場合は、【5.6 ユーザー情報を新規登録する場合】を参照し、扉情報の登録を行って下さい。



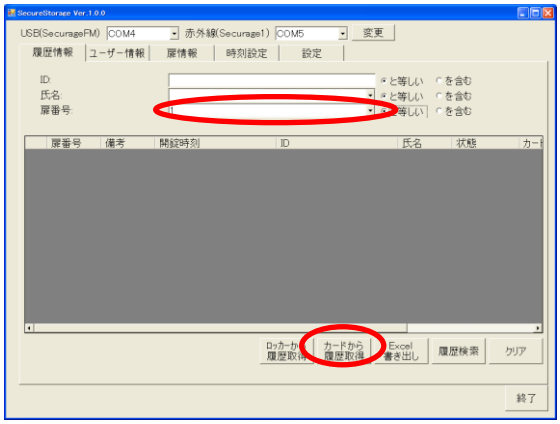
『履歴情報』タブを選択します。

【開錠履歴を取得する場合】
（カード運用の場合）
ログ採取カードを該当のカード読取部分にかざし、開錠履歴をログ採取カードにダウンロードします。
※ カード読取部分の LED が橙色点滅し、緑色点灯及び BEEP 音がなるまでカードは R/W 部にかざしたままにして下さい。
※ USB タイプの R/W からカードにダウンロードする場合、Felica IDm/Mifare UID 運用の場合は最新の 100 件分、Felica カスタム ID/Mifare カスタム ID 運用の場合は最新の 50 件分の開錠履歴データとなります。
※ 赤外線タイプ(旧タイプ)の R/W からカードにダウンロードする場合、IDm 運用の場合は最新の 100 件分、ID/カスタム ID 運用の場合は最新の 50 件分の開錠履歴データとなります。
開錠履歴をダウンロードしたログ採取カードを管理用パソコンに接続している PaSoRi にセットします。

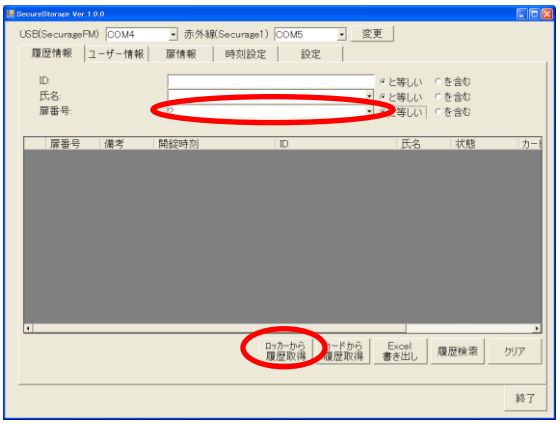
（USB通信運用の場合） USBケーブルを（ハードウェア）をR/W部のUSBコネクタに装着します。
通信カードを該当のR/W部にかざし（橙LED点灯し、通信開始するとLEDは橙で点滅）、履歴の取得が完了して一覧が再表示されるまでかざしたままの状態にして下さい。
USB 接続後、通信カードをかざした後のセッション保持時間は 3 分間です。3 分以内にパソコンから通信開始するよう操作してください。

赤外線運用(旧タイプ)の場合
赤外線ユニット（ハードウェア）をカード読取部分下部の赤外線ポート付近に設置します。
赤外線通信カードを該当のカード読取部分にかざし（橙 LED 点灯し、赤外線通信開始すると LED は消灯）、履歴の取得が完了して一覧が再表示されるまでかざしたままの状態にして下さい。

（カード運用の場合）

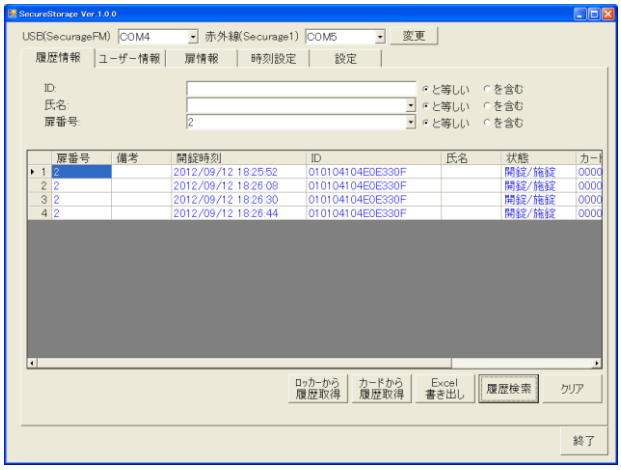


（USB 通信運用/赤外線運用の場合）



履歴をダウンロードする扉番号及びカード使用の場合は『カードから履歴取得』ボタン、USB 通信/赤外線使用(旧タイプ)の場合は『ロッカーから履歴取得』ボタンを選択します。

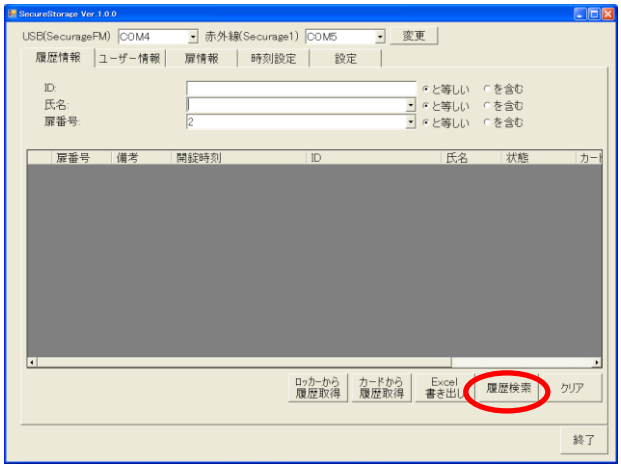
※　扉番号は必ず該当のものであるか確認してください。違う扉番号を選択するとデータの整合性がとれない場合があります。



該当の扉の開錠履歴データを表示します。

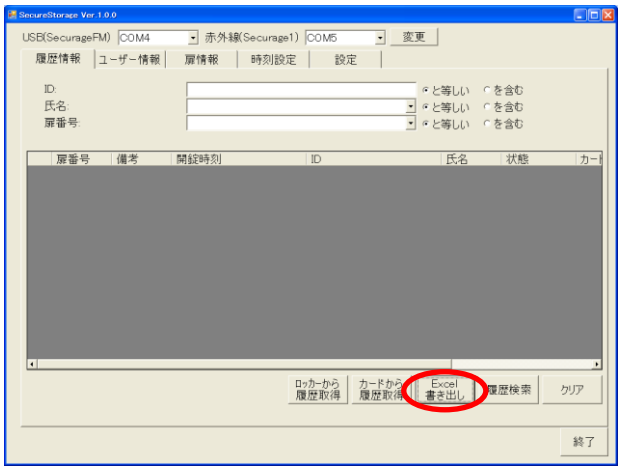
※　当操作で表示するデータはリーダライタ(R/W)部で蓄積している最新データのみです。過去の開錠履歴を確認したい場合は下の[履歴表示について]をご覧下さい。

[履歴表示について]

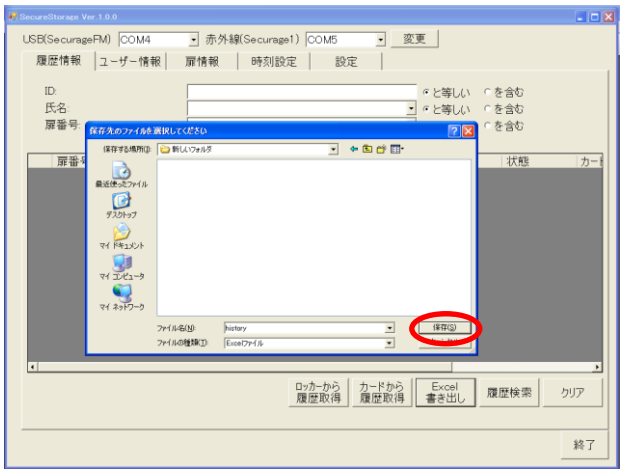


以前の履歴を表示する場合、履歴情報タブで検索条件を入力(条件を入力しない場合は既に取得されている開錠履歴を全て表示します)し、『履歴検索』ボタンを選択します。
当操作により PC 内に保存されている以前の履歴を確認することができます。
※　当操作によりカード読取部分にある最新の履歴はダウンロードされません。

【開錠履歴を Excel 形式で取得する場合】

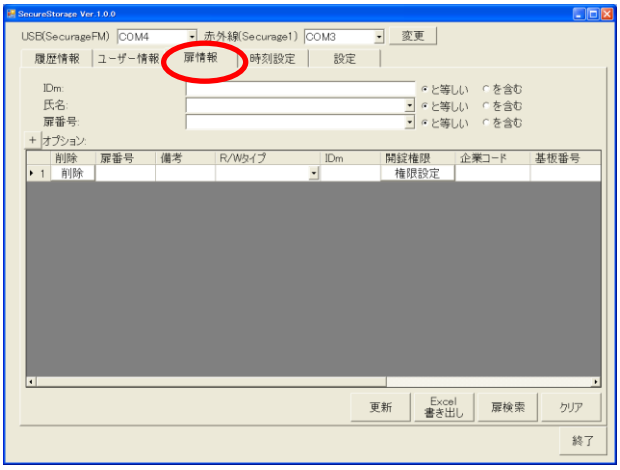


開錠履歴を Excel 形式で取得する場合は検索条件を入力（条件を入力しない場合は既に取得されている開錠履歴を全て書き出します）し、『Excel 書き出し』ボタンを選択します。



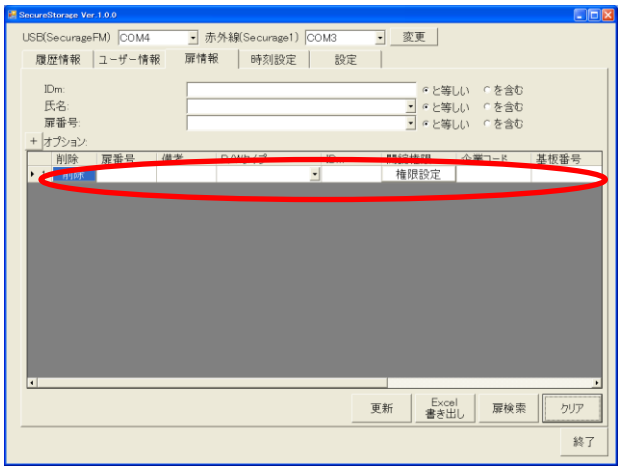
情報を格納するExcelファイルを選択します。
既にファイルが存在する場合はファイルを選択します。
新規にファイルを作成し格納する場合はファイル名を入力します。
書き出すファイル名が正しい場合、『保存』ボタンを選択し、開錠履歴を書き出します。

5.6 扉情報を閲覧・更新したいとき（管理者権限でログインした時のみ）

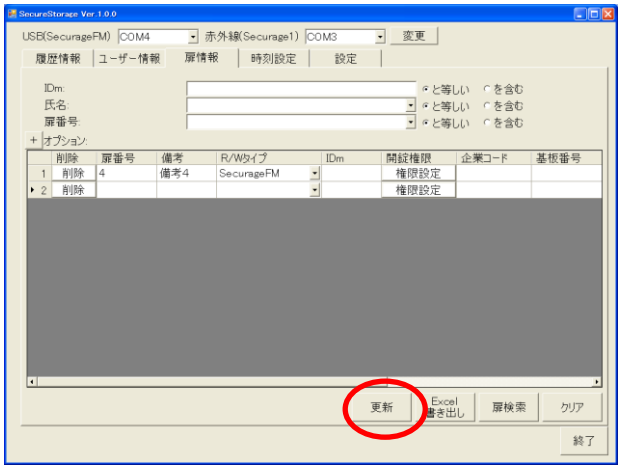


扉情報タブを選択する・

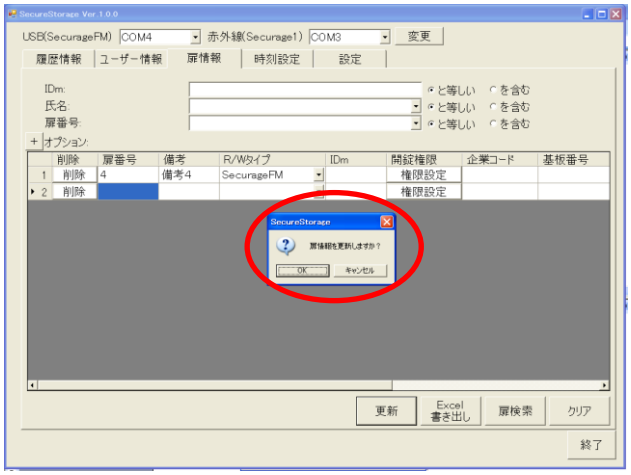
【扉情報を新規登録する場合】



上記の赤枠で囲まれた項目に登録する扉の情報を入力します。

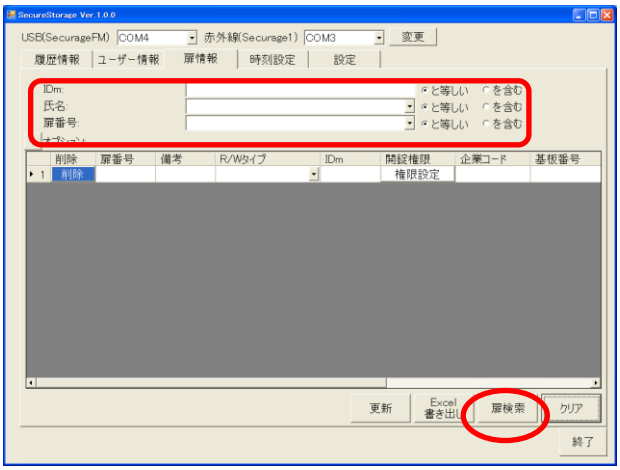


入力が完了したら『更新』ボタンを選択します。

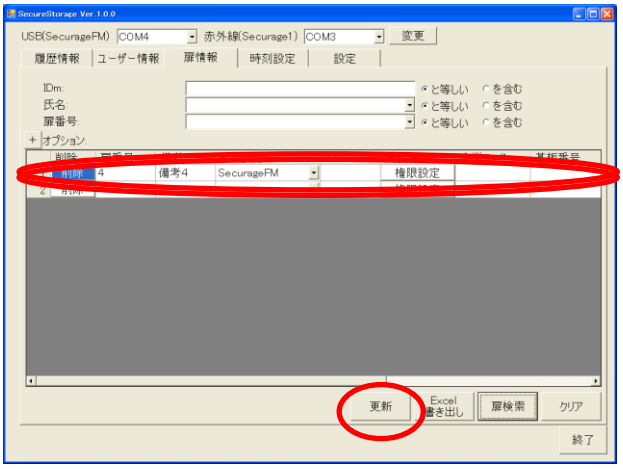


確認メッセージが表示されるので入力内容を確認し、問題なければ『OK』ボタンを選択します。

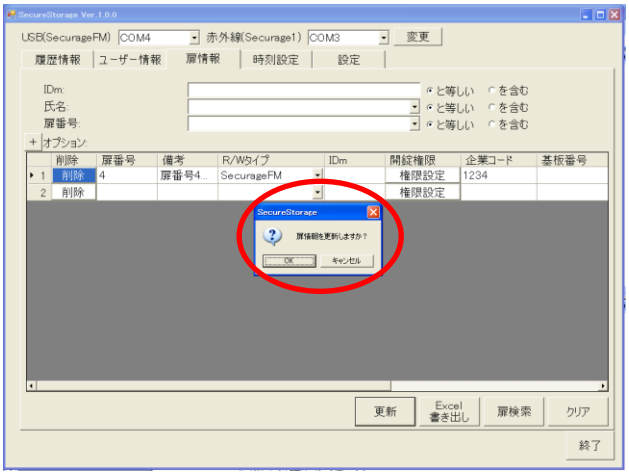
【扉情報を修正（変更）する場合】



扉情報を修正する場合は検索条件を入力（条件を入力しない場合は登録されている全扉を表示します）した後、『扉検索』ボタンを選択します。

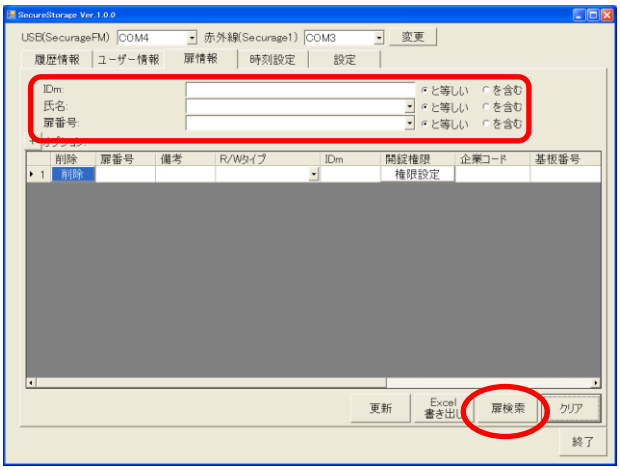


既に登録されている扉情報の該当の項目について修正（変更）します。
修正が完了したら『更新』ボタンを選択します。

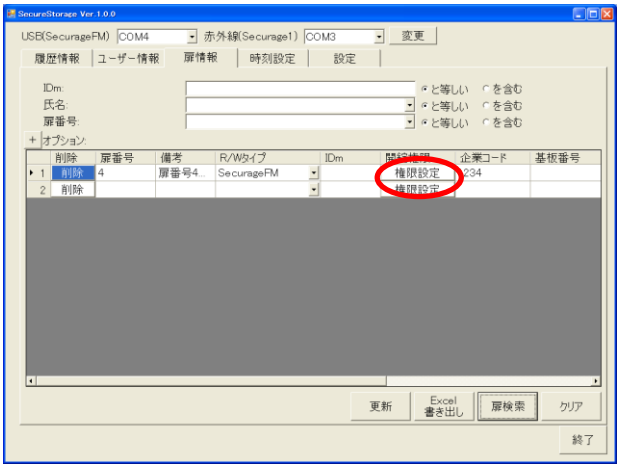


確認メッセージが表示されるので入力内容を確認し、問題なければ『OK』ボタンを選択します。

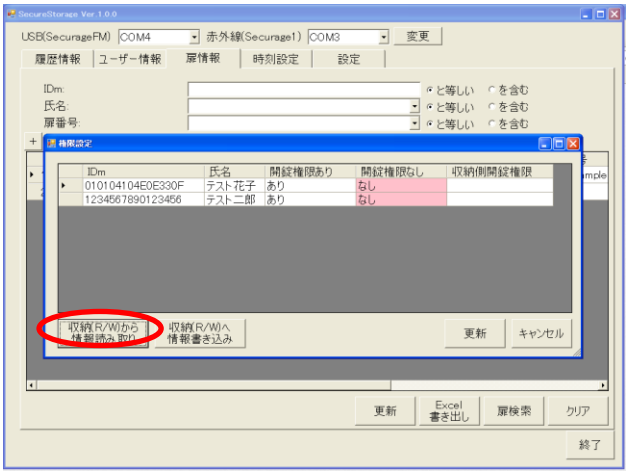
【R/W に登録されているユーザーを表示する場合】



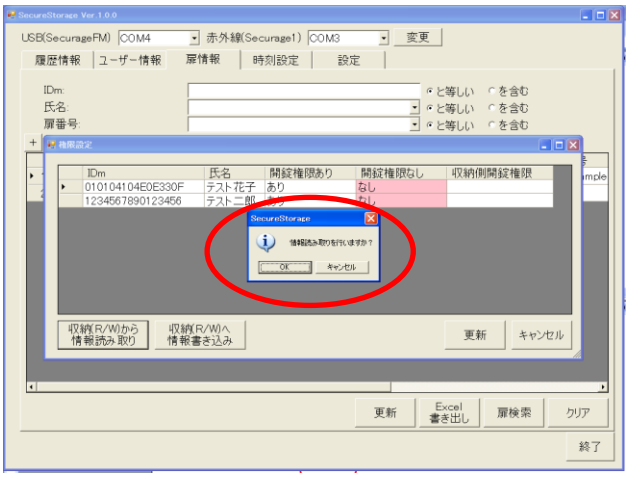
R/W に登録されているユーザーを表示する場合は検索条件を入力（条件を入力しない場合は登録されている全扉を表示します）した後、『扉検索』ボタンを選択します。



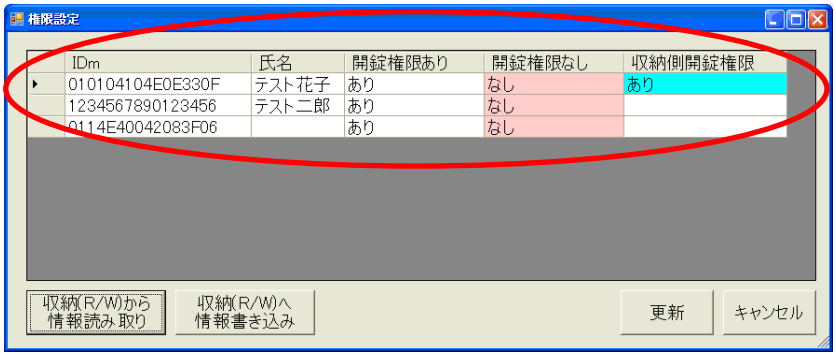
登録されているユーザーを表示したい扉番号の『権限設定』ボタンを選択します。



権限設定画面が表示され、PC に登録されている全ユーザーが表示されます。
R/W に登録されているユーザーを表示するには『収納(R/W)から情報読み取り』ボタンを選択します。

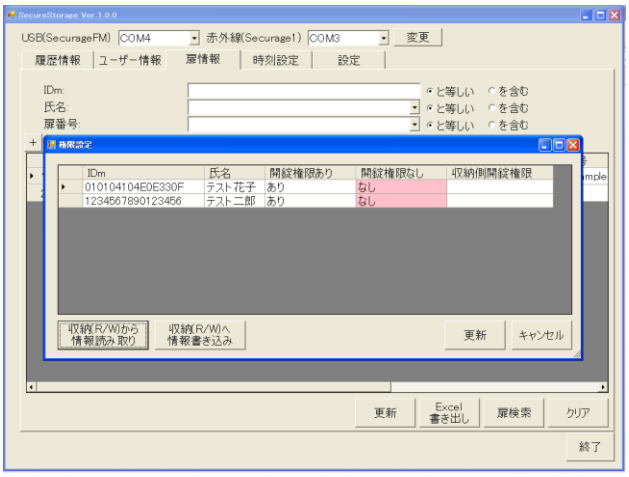


リーダライタ(R/W)に USB 又は赤外線ユニットが接続されていることを確認し、赤外線通信／通信カード※をカード読取部分にかざした後、『OK』ボタンを選択します。
赤外線通信／通信カード※を該当のカード読取部分にかざした場合には橙 LED が点灯し、赤外線通信を開始すると LED は消灯します。

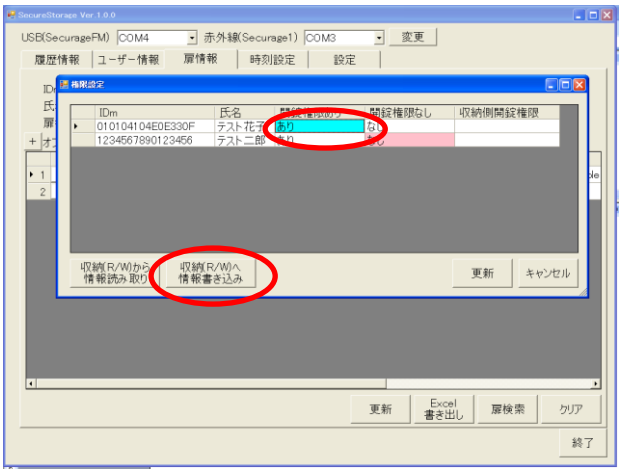


読み取りが完了した場合の表示は以下の通りになります。
(上)PC、R/W 両方に登録されているユーザーの場合、収納側開錠権限の列に『あり』と表示されます。
(中)PC にのみ登録されているユーザーの場合、そのまま表示されます。
(下)R/W にのみ登録されているユーザーの場合、一番下の行に表示されます。※
※R/W にのみ登録されているユーザーは、後述の【R/W にユーザーを登録する場合】で R/W にユーザー登録することは可能ですが、後述の【扉にユーザーを登録する場合】でソフト側にユーザーを追加することはできません。R/W にのみ登録されているユーザーをソフト側にも追加したい場合、先に前述の【ユーザー情報を新規登録する場合】を行ってください。

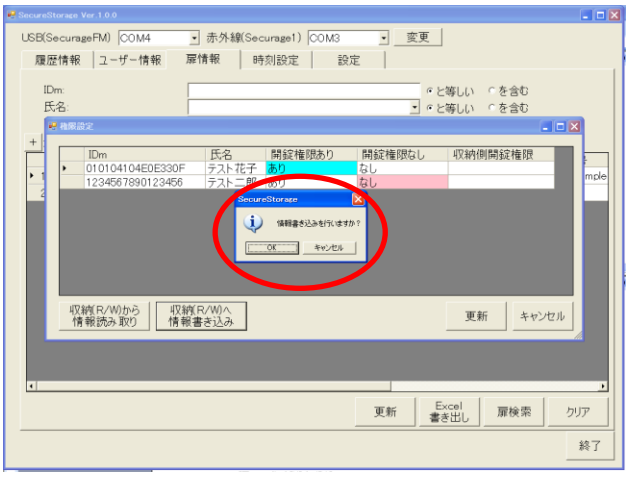
【R/W にユーザーを登録する場合】



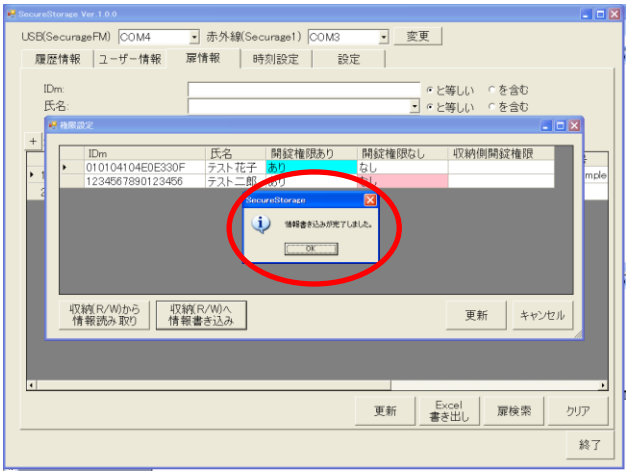
扉情報タブで『開錠権限』ボタンを選択し、権限設定画面を表示します。
※ユーザを登録するリーダライタ(R/W)を間違えないように注意してください。



開錠権限を与えたいユーザーの開錠権限ありの列を選択し、赤外線通信／通信カード※をカード読取部分にかざした後、『収納(R/W)へ情報書き込み』ボタンを選択します。

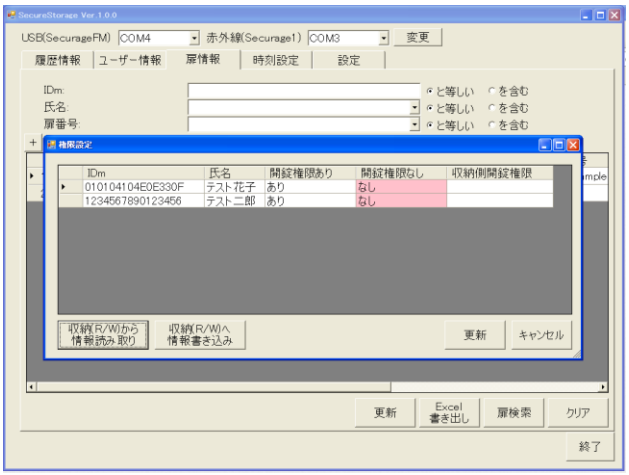


LED が一度消灯したことを確認して、赤外線通信／通信カード※をカード読取部分にかざした後、『OK』ボタンを選択します。
赤外線通信カードを該当のカード読取部分にかざした場合には橙 LED が点灯し、赤外線通信を開始すると LED は消灯します。
※ 2008 年 1 月出荷分よりカード表面に印刷している名称が「通信カード」に変更になっています。

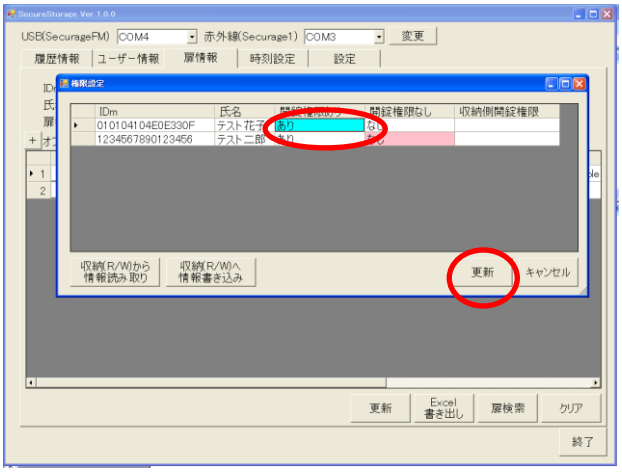


利用者登録が正常に終了した場合、上のウィンドウが表示されます。

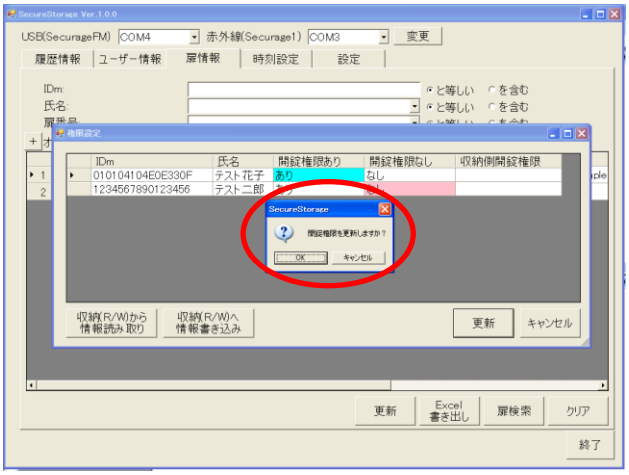
【扉にユーザーを登録する場合】



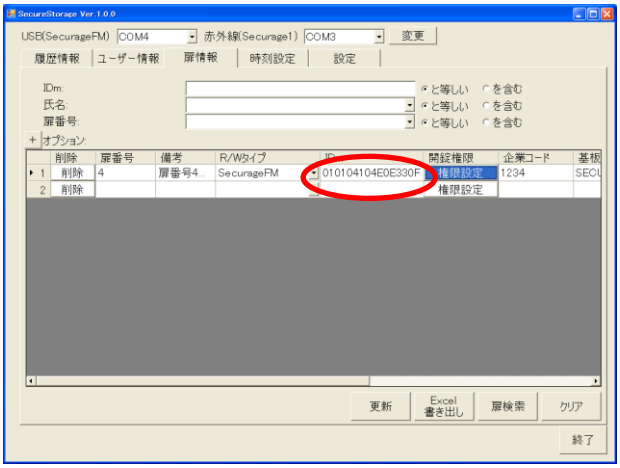
扉情報タブで『開錠権限』ボタンを選択し、権限設定画面を表示します。



開錠権限を与えたいユーザーの開錠権限ありの列を選択し、『更新』ボタンを選択します。

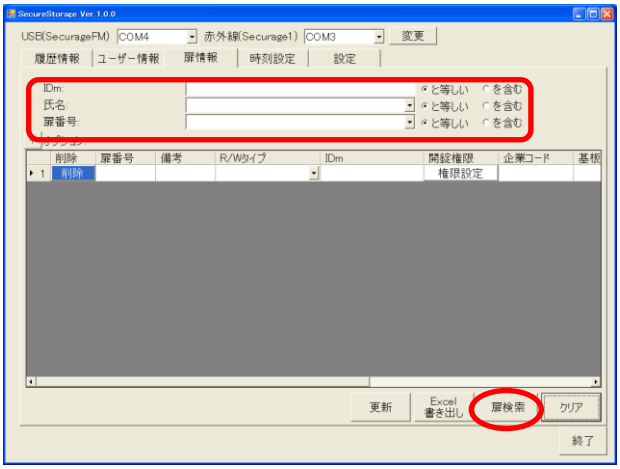


確認メッセージが表示されるので入力内容を確認し、問題なければ『OK』ボタンを選択します。

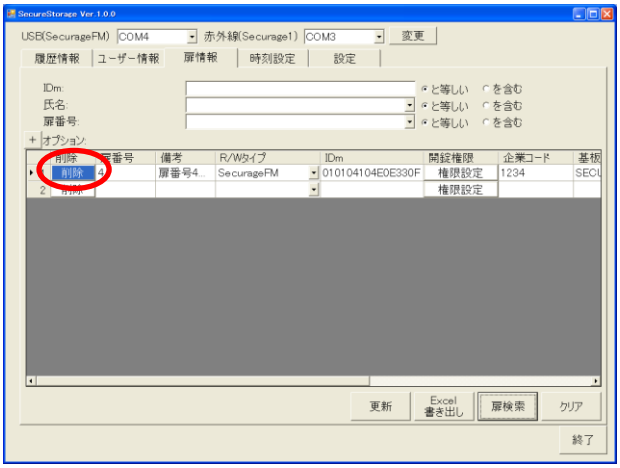


権限設定画面が閉じられ、登録したユーザーの IDm が表示されます。(複数登録した場合は『/』区切りで表示されます)

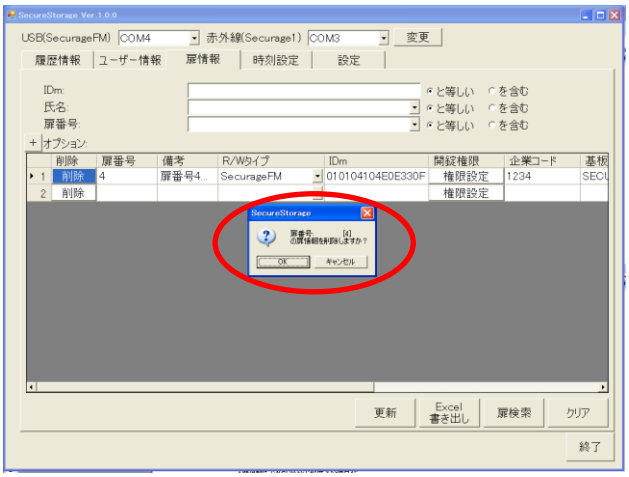
【扉情報を削除する場合】



扉情報を削除する場合は検索条件を入力(条件を入力しない場合は登録されている全扉を表示します)した後、『扉検索』ボタンを選択します。

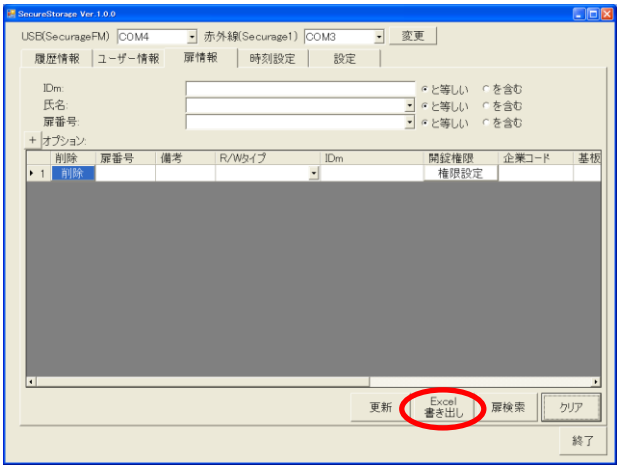


削除したい行の『削除』ボタンを選択します。

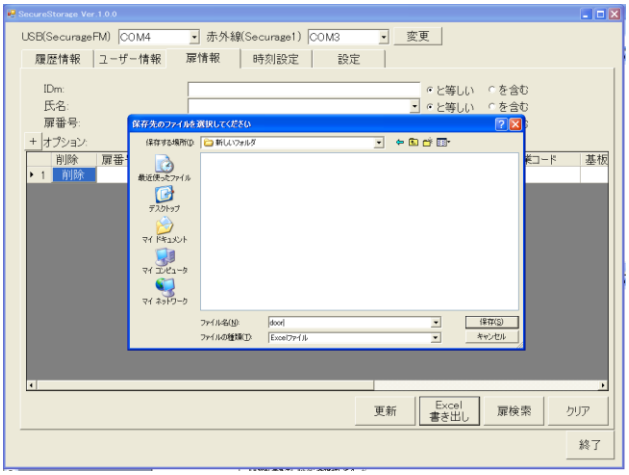


確認メッセージが表示されるので、該当する扉を削除して構わなければ『OK』を選択して下さい。

【扉情報を Excel 形式で取得する場合】



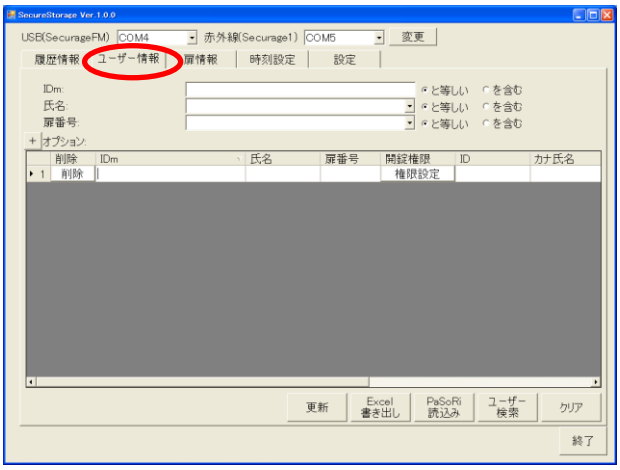
扉情報を Excel 形式で取得する場合は条件を入力(条件を入力しない場合は登録されている扉情報を全て書き出します) し、『Excel 書き出し』ボタンを選択します。



情報を格納するExcelファイルを選択します。
既にファイルが存在する場合はファイルを選択します。
新規にファイルを作成し格納する場合はファイル名を入力します。
書き出すファイル名が正しい場合、『保存』ボタンを選択し、ユーザー情報を書き出します。

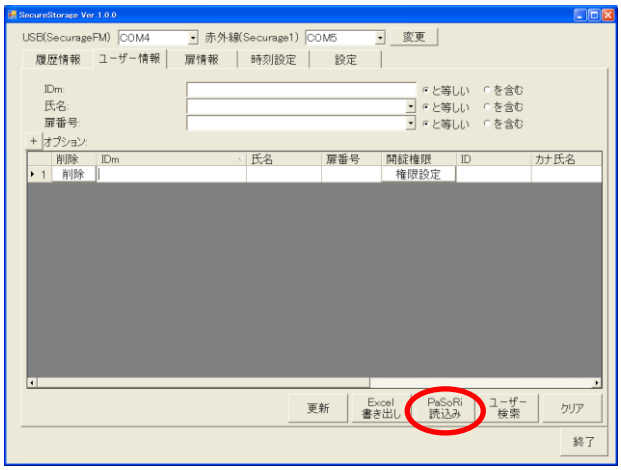
5.7 ユーザー情報を閲覧・更新したいとき（管理者権限でログインした時のみ）

管理ソフト(ログ収集ソフト)側にユーザデータを登録・修正する時に使用します。



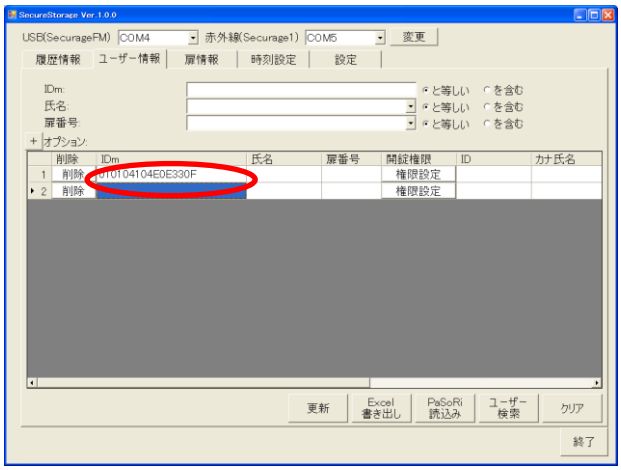
ユーザー情報タブを選択する。

【ユーザー情報を新規登録する場合】

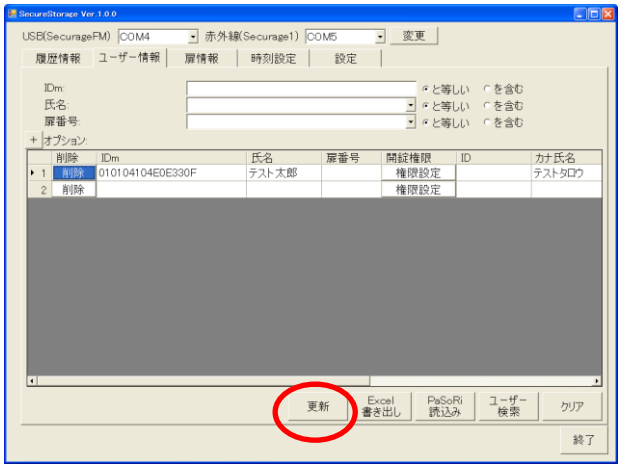


IDm 番号や UID 番号をパソコンに接続されている PaSoRi 経由で読み取る場合、該当のユーザカードを PaSoRi にセットし、『PaSoRi 読込み』ボタンを選択します。

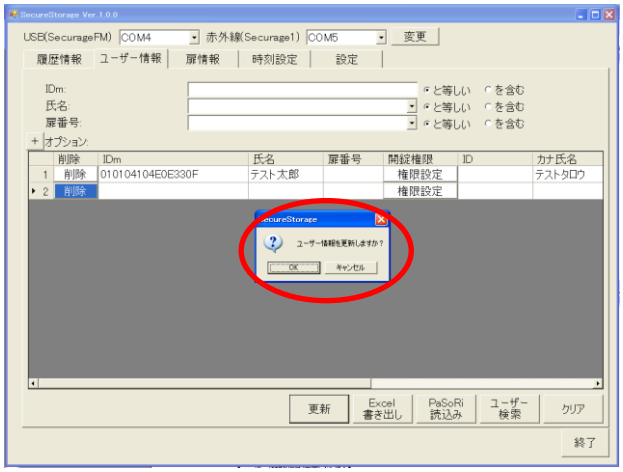
※ 設定タブで選択中の運用タイプと一致するカードのみ読み込むことが可能です。



上の画面のようにIDm項目に読み取ったカードのIDm番号やUID番号が表示されます。

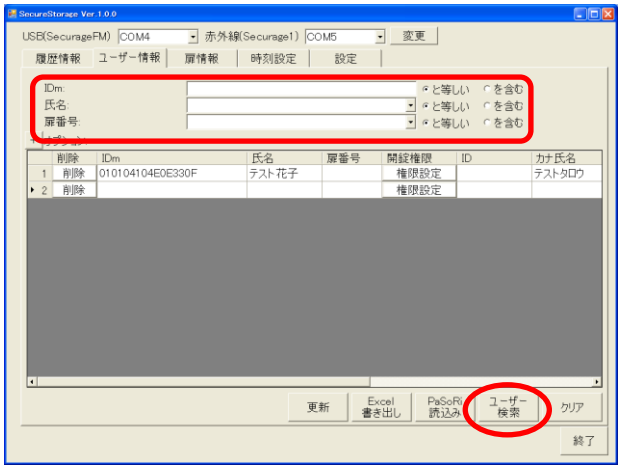


入力が完了したら『更新』ボタンを選択します。

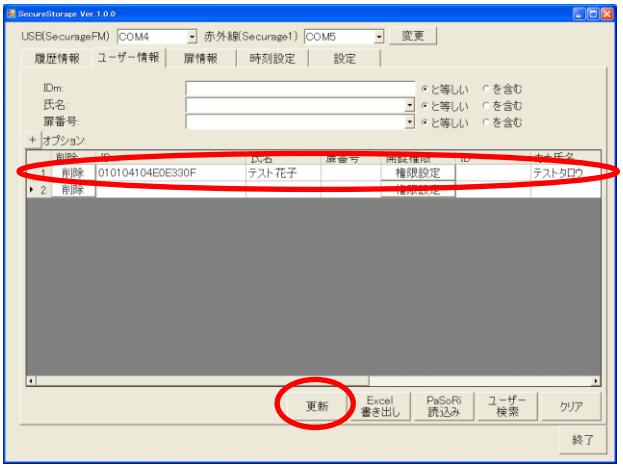


確認メッセージが表示されるので入力内容を確認し、問題なければ『OK』ボタンを選択します。

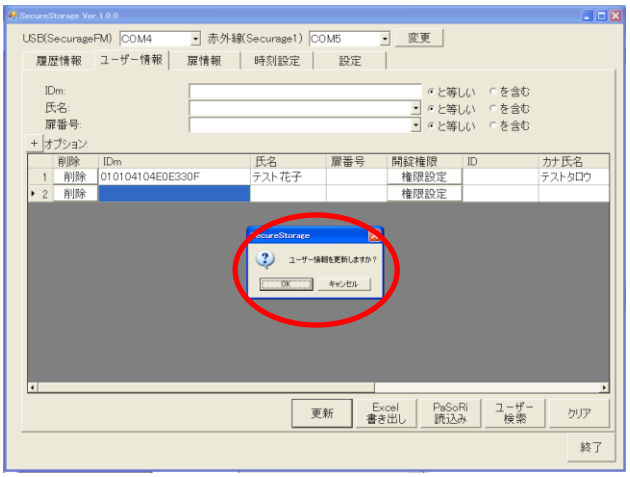
【ユーザー情報を修正（変更）する場合】



ユーザー情報を修正する場合は検索条件を入力（条件を入力しない場合は既に登録されているユーザー全員を表示します）した後、『ユーザー検索』ボタンを選択します。



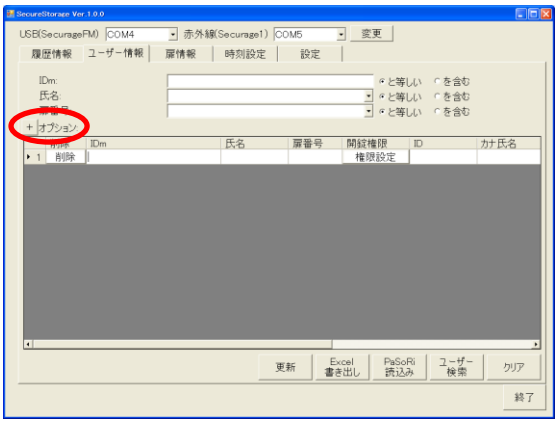
既に登録されているユーザー情報の該当の項目について修正(変更)します。
修正が完了したら『更新』ボタンを選択します。



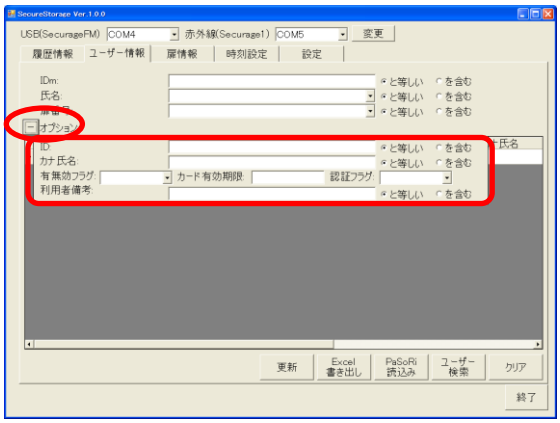
確認メッセージが表示されるので入力内容を確認し、問題なければ『OK』ボタンを選択します。

［検索オプションについて］(ユーザー情報タブ、扉情報タブ)
『＋』ボタンを選択するとオプションの検索条件が表示されます。オプションが表示されている間、ボタンの表示が『－』になります。
『－』ボタンを選択するとオプションの検索条件が非表示となり、ボタンの表示が『＋』に戻ります。

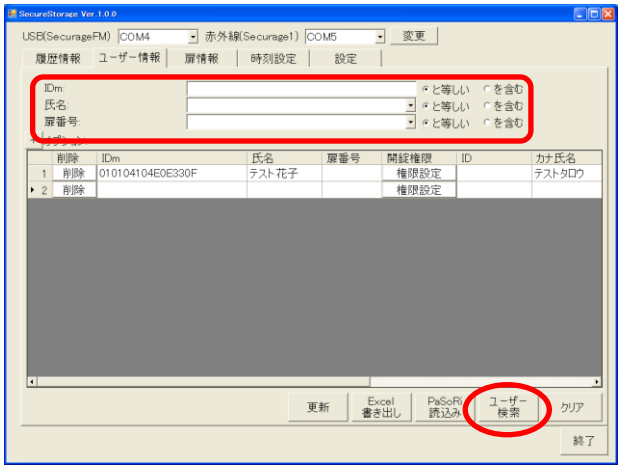
(選択前)



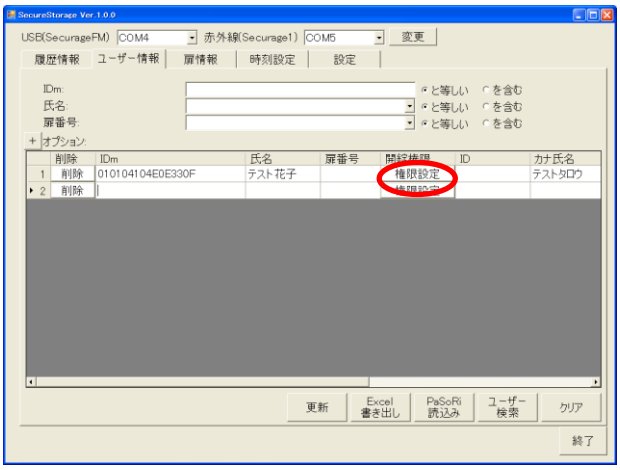
(選択後)



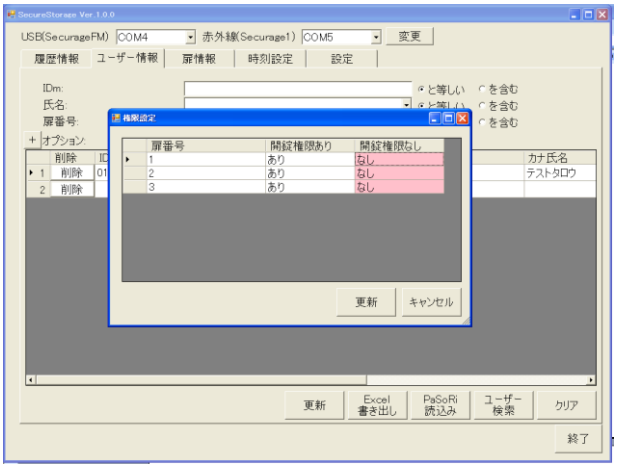
【ユーザーが利用する扉を登録する場合】



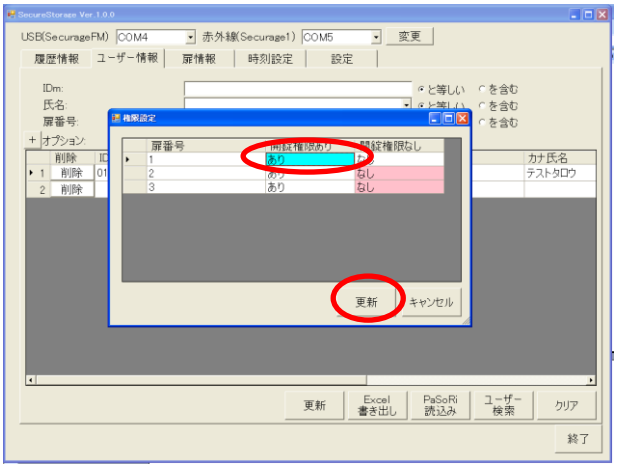
ユーザーが利用する扉を登録する場合は検索条件を入力(条件を入力しない場合は登録されているユーザー全員を表示します)した後、『ユーザー検索』ボタンを選択します。



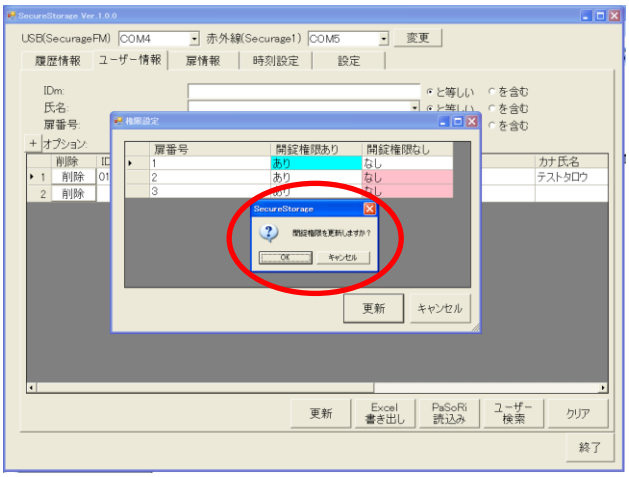
利用する扉を登録したいユーザーの『権限設定』ボタンを選択します。



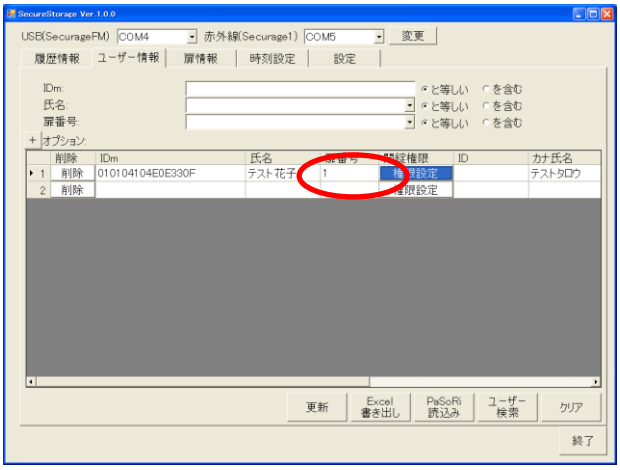
権限設定画面が表示され、PC に登録されている全扉が表示されます。



ユーザーが利用する扉番号の開錠権限ありの列を選択し、『更新』ボタンを選択します。

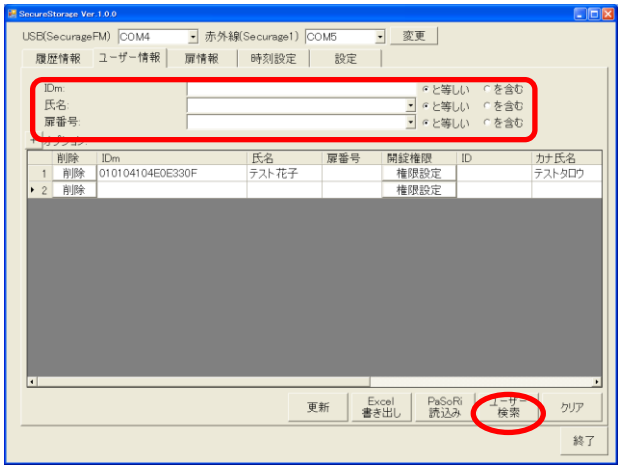


確認メッセージが表示されるので入力内容を確認し、問題なければ『OK』ボタンを選択します。

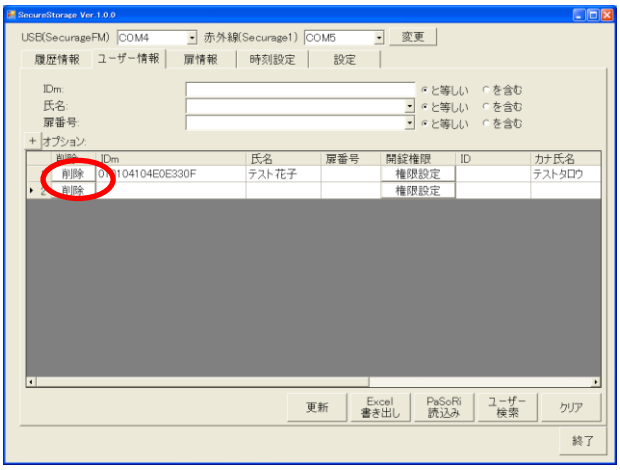


権限設定画面が閉じられ、登録した扉番号が表示されます。(複数登録した場合は『/』区切りで表示されます)

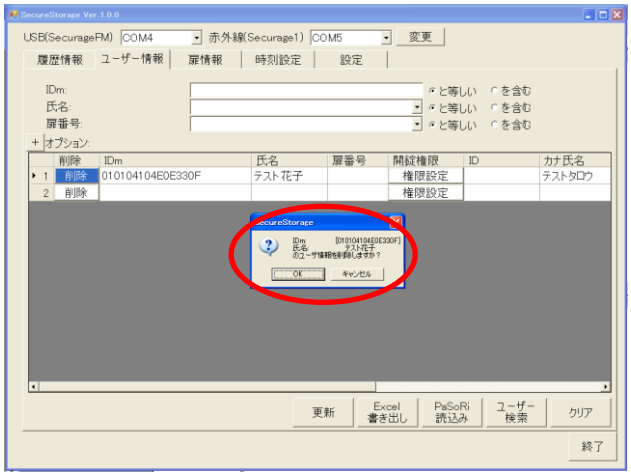
【ユーザー情報を削除する場合】



ユーザー情報を削除する場合は検索条件を入力（条件を入力しない場合は登録されているユーザー全員を表示します）した後、『ユーザー検索』ボタンを選択します。

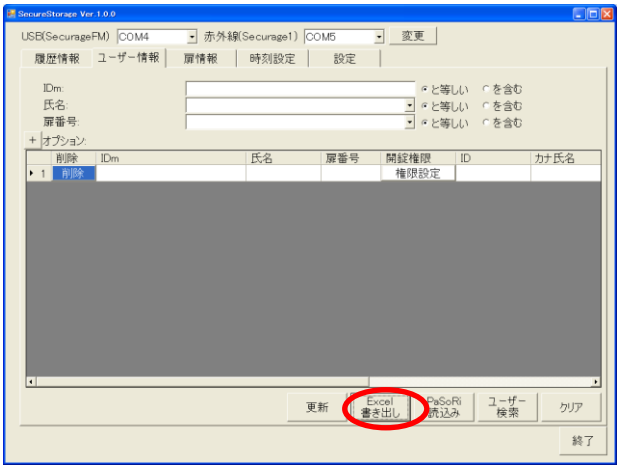


削除したい行の『削除』ボタンを選択します。

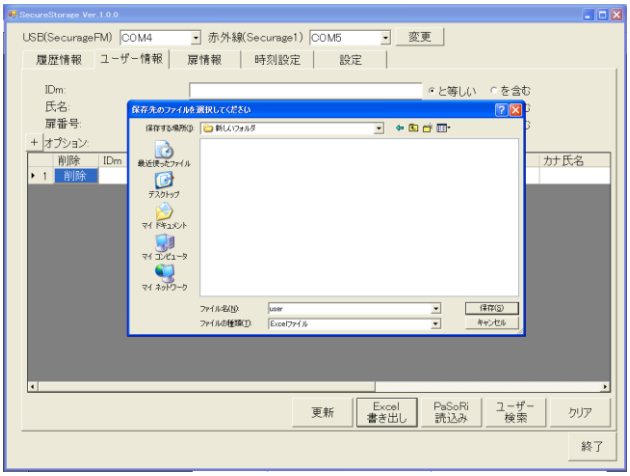


確認メッセージが表示されるので、該当ユーザーを削除して構わなければ『OK』を選択して下さい。

【ユーザー情報を Excel 形式で取得する場合】

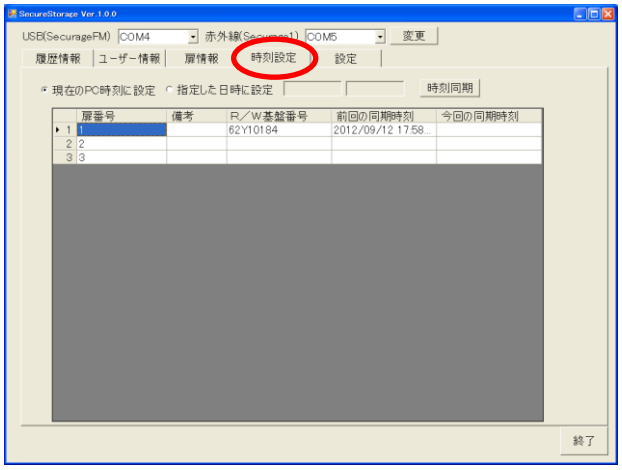


ユーザー情報を Excel 形式で取得する場合は条件を入力(条件を入力しない場合は登録されているユーザー情報を全て書き出します) し、『Excel 書き出し』ボタンを選択します。



情報を格納するExcelファイルを選択します。
既にファイルが存在する場合はファイルを選択します。
新規にファイルを作成し格納する場合はファイル名を入力します。
書き出すファイル名が正しい場合、『保存』ボタンを選択し、ユーザー情報を書き出します。

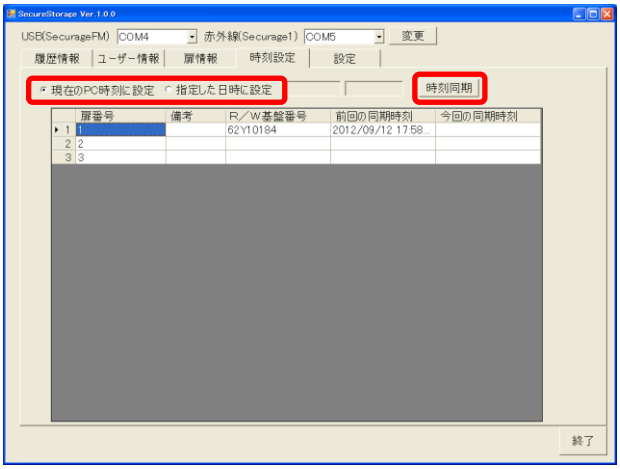
5.8 R/W の時刻設定をしたいとき（管理者権限でログインした時のみ）



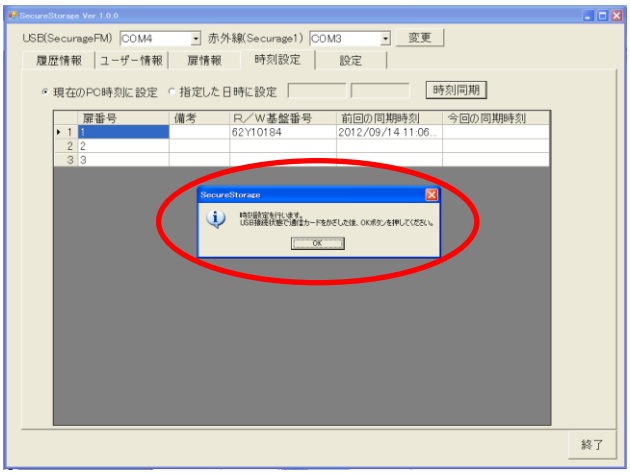
時刻設定タブを選択します。

【時刻設定を行う場合】
カード読取部分の時刻（年月日時分秒）設定を行う場合に当機能を使用します。SECURAGE シリーズで実装している時計はパソコンなどで利用されているものと同等機能を有しています。使用されている間に多少、時刻がずれる場合がありますので、お客様にて電池交換を行った際に、当機能をあわせて行うよう推奨します。
※　電池切れ状態が続いた場合、日時等の時計機能が初期状態に戻っていることがあります。
　　電池交換時には、時刻設定操作をあわせて行ってください。

【現在の PC 時刻にて設定する場合】

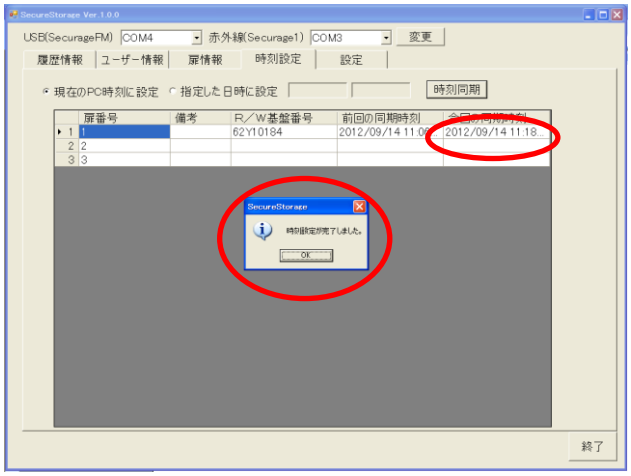


設定したい扉番号の行を選択し、時刻設定方法を選択してください。
特に問題なければ、初期値で選択されている「現在の PC 時刻に設定」にて作業を行ってください。この場合、操作するパソコンの現在時刻を R/W に書き込みします。
上記設定作業を行った後、『時刻同期』ボタンを選択してください。



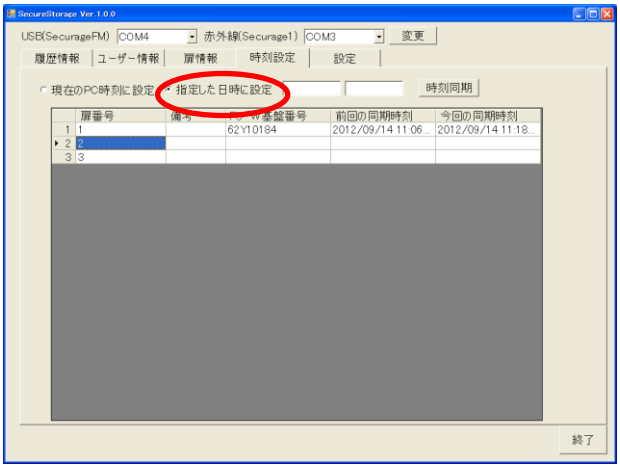
『時刻同期』ボタンを押下した後、R/W 部の現在時刻を確認するため赤外線通信／通信カード※を R/W 部にかざしてください。
メッセージの表示まで赤外線通信／通信カード※を R/W 部にかざし続ける必要があります。
R/W の時刻変更を行います。特に問題なければ『OK』ボタンを選択してください。

この時、赤外線通信／通信カード※を R/W 部にかざし、R/W 部の LED が緑色ランプ点灯することを確認してください（赤外線通信／通信カード※をかざした後、LED の緑色ランプ点灯時間は最大 10 秒間です。10 秒以内に通信が開始されない場合、ソフトウェア起動時にエラーとなります）。ソフトウェアと通信が開始されると LED のランプは消灯します。
時刻設定の終了まで赤外線通信／通信カード※を R/W 部にかざし続ける必要があります。

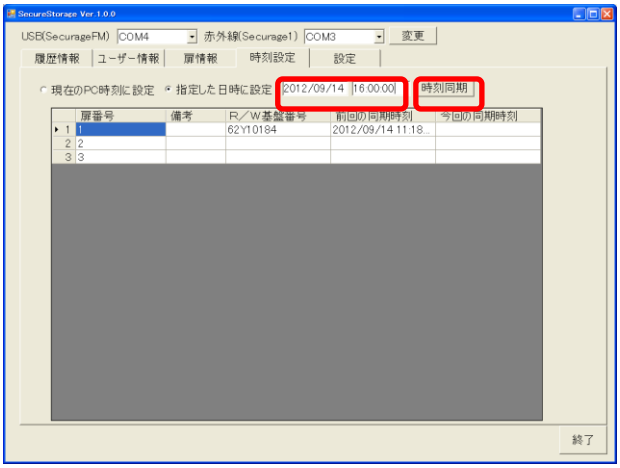


時刻設定が正常に終了するとメッセージが表示され、今回の同期時刻が表示されます。

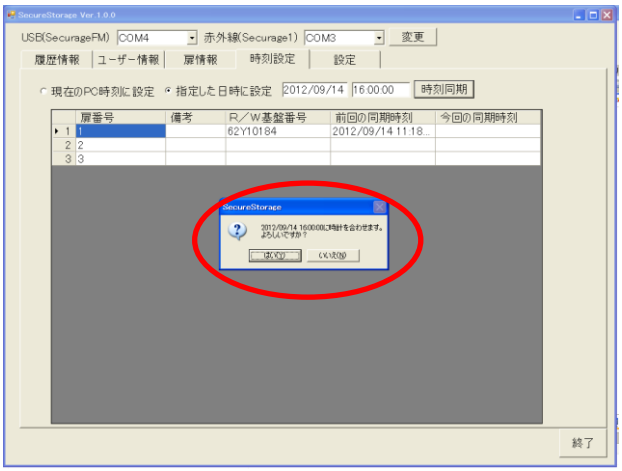
【指定した日時に合わせる場合】



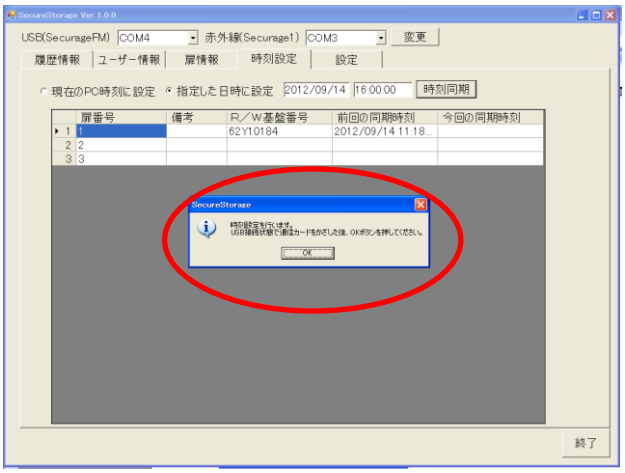
該当する扉番号の行を選択し、「指定した日時に合わせる」にチェックを行います。



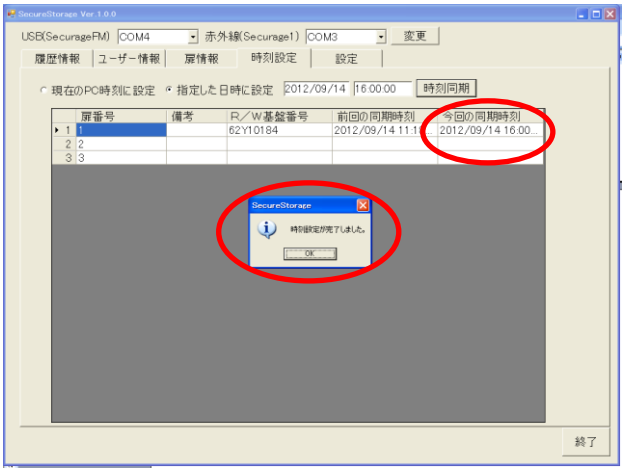
設定したい年月日及び時分秒を入力します。
入力が完了したら『時刻同期』ボタンを選択します。



表示されたウィンドウに表示されている年月日及び時分秒が間違いないか確認し、問題なければ『はい』を選択してください。
その後、画面メッセージに表示されている通り、赤外線通信カードを R/W 部にかざして下さい。
メッセージが表示されるまで赤外線通信／通信カード※を R/W 部にかざし続ける必要があります。
赤外線通信／通信カード※を R/W 部にかざした時、R/W 部の LED が緑色ランプ点灯→LED 消灯することを確認してください。



『OK』ボタンを選択した後、再度、赤外線通信／通信カード※を R/W 部にかざしてください。
時刻設定の終了まで赤外線通信／通信カード※を R/W 部にかざし続ける必要があります。
また、赤外線通信/通信カード※をR/W部にかざした時、R/W部のLEDが緑色ランプ点灯→LED消灯することを確認してください。



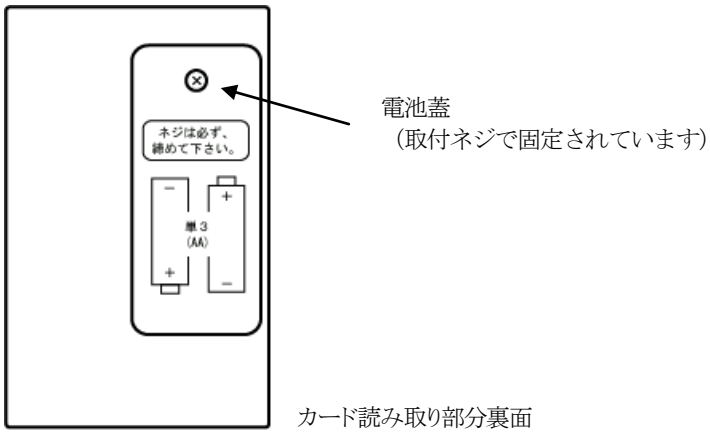
時刻設定が正常に終了するとメッセージが表示され、今回の同期時刻が表示されます。

第 6 章　消耗品などについて

6.1　電池交換

6.1.1　電池の消耗、交換時の注意事項

カード操作の度に LED ランプが赤色に点滅しブザーが3回鳴動する場合は、内蔵されている乾電池の消耗が考えられます。速やかに新しい単3形　乾電池に2本ともお取り替えください。



乾電池の交換は電池蓋を取り付けているネジをはずして交換します。電池を入れ替えた後は、電池蓋を取り付けてネジが確実に締まっているか確認してください。

注意1）電池蓋の取り付けネジがはずれた状態で扉を閉めた場合、電池が飛び出してしまい解錠が出来なくなる恐れがあります。万が一ネジがなくなってしまった場合は、テープなどで電池蓋を仮止めし販売店までご連絡ください。

注意2）扉が開かなくなる恐れがありますので、電池交換後には、必ず扉を開いた状態で扉の解錠をご確認下さい。

■両開き書庫の場合、**扉を開けた状態**で扉の解錠をご確認下さい。

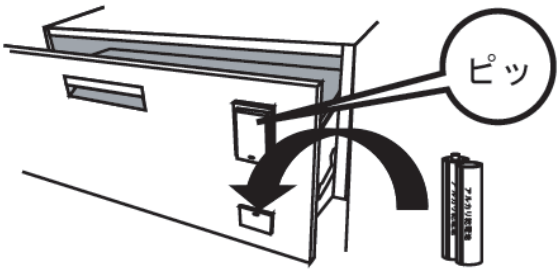
確認方法

※解錠確認が出来ない場合は、電池を抜いて 30 秒から 1 分程度時間をおいてから

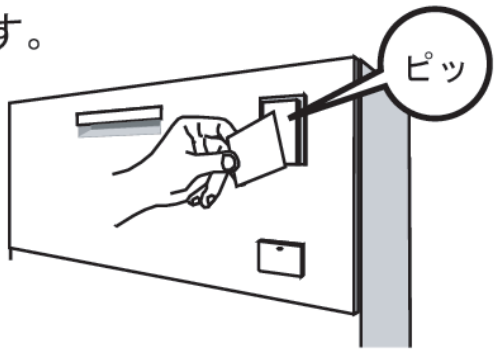
再度電池を入れて解錠確認（①から）を行って下さい。

■ラテラル書庫の場合、引きだしを閉めて解錠確認して下さい。

① 電池交換を行います。
（カードリーダから「ピッ」と音が鳴ります）



② 扉を閉め、解錠確認を行います。



※解錠確認が出来ない場合は、電池を抜いて 30 秒から 1 分程度時間をおいてから

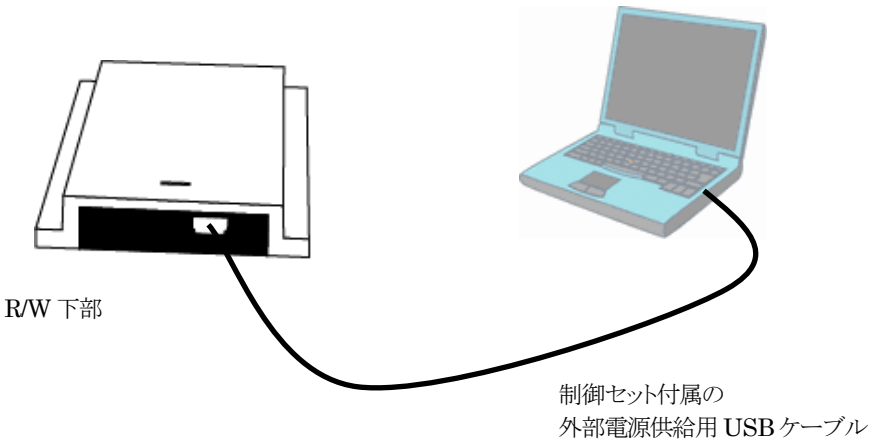
再度電池を入れて解錠確認（①から）を行って下さい。

6.1.2 電池切れの場合

電池切れで解錠しなくなってしまった場合は、付属の電源供給用 USB ケーブルを PC と接続し、リーダに対して電源を供給します。

解錠は通常通り、ユーザカードで行います。

※USBケーブルを紛失された場合は、A 型⇔miniB 型のUSBケーブルを御使用下さい。



第７章　ヘルプデスクについて

7.1　ヘルプデスクの内容

SECURAGE を利用する上で発生する、疑問点、不具合などを以下の要領でお問い合わせ下さい。
購入後5年間お問い合わせが可能です。

お問合せ先　ウチダコールセンター

受付時間　　平日（月曜日～金曜日）　9:00～17:00

※祝祭日、年末年始は除きます

電話・FAX でお問い合わせください

Tel:0120－101－884

Fax:047－382－2053

↓

次の内容をオペレータにお伝えください。

① お客様の会社名及び設置場所、ご担当者様名

② お問合せ内容

↓

対応内容

① SECURAGE の機能に関するお問合せ

② SECURAGE の操作方法に関するお問合せ

③ SECURAGE 利用時における障害の電話による原因切り分け

*注意事項

当製品はセキュリティ関連製品の為、お問合せの際は受付後、コールバックし、会社名、住所、電話番号、ご担当者を確認の上、回答申し上げます。

第８章　留意事項

8.1　非常解錠について

本製品はセキュリティを目的に開発されております。非常解錠用の鍵が複数存在することで管理が煩雑になることと、
非常解錠用鍵の紛失悪用を防ぐためにも、標準品では非常解錠用鍵は採用しておりません。
故障時には、保守員がオンサイトで作業を行ないますが、基本的には即日対応は出来ません。
故障箇所によっては、最悪の場合、破壊開錠となる旨ご了承ください。

8.2　ユーザ登録書について

ヘルプデスクサービスをお受け頂く時に必要となります。大切に保管してください。

8.3　登録カードについて

管理用の登録カードに関しては、お客様固有でお買い求め頂いた SECURAGE と関連付けがされております。
（1つのリーダライタ(R/W)に対して、1枚の登録カードしか登録できない為、複数枚の登録カードはご利用できません。）
万一登録カードを紛失/破損してしまった場合は、販売店までお問い合わせください。
登録カードの再発行は、再度 SECURAGE*への関連付けが必要になる為、SECURAGE 設置場所での再設定作業が必要となります。登録カードは大切に保管してください。
*再セットアップとなるため、開錠履歴・登録者情報は全て消去されます。ご了承ください。

第９章　困ったときは

9.1　よくあるトラブルと解決方法

現象	解決方法
1. どのカードをかざしても反応しない	乾電池が消耗している可能性があります。USB 接続により開錠し新しい単3型アルカリ乾電池を2本とも交換してください。
2. ユーザカードをかざしても、解錠できない	登録が正常に完了されていない可能性があります。再度利用者登録を行ってください。
3. 管理用カードを紛失してしまった	管理用の登録カードに関しては、お客様固有でお買い求め頂いた SECURAGE と関連付けがされております。 販売店までご相談ください。
4. 誤って全削除カードで利用者を削除してしまった	再登録になります。
5. 登録カードが赤 LED ではじかれる場合	制御セットが複数ある場合、一番初めにリーダライタ(R/W)にかざした登録カードのみが有効になります。登録カードをご確認の上、再度ご利用下さい。
6. カード操作すると、LED が赤に点滅し、ブザー(BEEP 音)が約 10 秒間鳴動する。	乾電池取替え時期です。速やかに乾電池を取り替えてください。
7. 赤外線通信エラー時に、エラー番号「17」が表示される。	赤外線ユニットを接続しているPCのポート番号が異なっています。 第4章の 4.4「赤外線ユニット使用時の COM ポート設定について」を参照し、COM ポート番号の確認をお願いいたします。
8. 緊急開錠時に、外部電源用ケーブルが見当たらない。	外部電源用ケーブル及び、制御セットの SECURAGE ロッカー内での保管は避けて下さい。 管理者様のお手元での保管を推奨いたします。

9.2 USB 通信エラー時に画面表示されるエラー番号について

エラー番号	エラー内容
1	指定パラメータファイル異常(ファイルが見つからない等)
2	指定出力ファイル異常(書けない、パスがない、読み取り専用になっている等)
3	パラメータに不整合があります
17	PCの通信ポートがオープンできない
18	通信が確立できない（通信相手=電子錠がポートオープンされてない、通信カードをかざした後にアプリケーションが通信開始するまで3分以上経過した）
19	通信設定エラー
20	通信タイムアウト
21	その他の通信エラー
128	.NETがパソコンにインストールされていない
143	その他のエラー
4097	読み込みキャンセル(解錠ログ読み込みエラー)
4098	開錠履歴ログ初期化キャンセル
4113	読み込みキャンセル（利用者情報読み込みエラー）
8193	設定キャンセル（時刻設定エラー）
12801	設定キャンセル（利用者情報書き込みエラー）
16385	設定キャンセル（ID設定情報登録エラー）
16641	設定キャンセル（ID設定情報取得エラー）

9.3 赤外線通信エラー時に画面表示されるエラー番号について

エラー番号	エラー内容
1	指定パラメータファイル異常(ファイルが見つからない等)
2	指定出力ファイル異常(書けない、パスがない、読み取り専用になっている等)
3	パラメータに不整合があります
17	PC の赤外線（シリアル）ポートがオープンできない
18	赤外線通信が確立できない（通信相手=電子錠がポートオープンされてない、赤外線の先のかざす位置が合わない、赤外線通信カードをかざした後にアプリケーションが通信開始するまで 10 秒以上経過した）
33	コマンドファイル異常(ファイルが見つからない等)
34	プログラム書込ファイル異常
35	プログラム書込サイズエラー
129	メモリ獲得異常
130	E_Locker.ini ファイル設定値エラー
143	その他のエラー
252	シーケンス番号異常
254	全体データ長と受信データ長が違う
4097	要求ブロックNo. 異常(コマンドファイル異常)
4349	データID異常（未対応のID）
4350	全体データ長と受信データ長が違う
4351	コマンドコード異常
8193	設定サイズエラー
8194	設定値が範囲外のものがある
8445	データID異常（未対応のID）
8446	全体 LNG と受信データ長が違う
8447	コマンドコード異常
8449	設定サイズエラー
8450	設定値が範囲外のものがある
8701	データID異常（未対応のID）
8702	全体 LNG と受信データ長が違う
12289	ブロック No、全ブロック数異常
12290	ブロック No が連続していない
12291	書き込みサイズが大きい
12292	書き込みエラー

12293	消去エラー
12294	サム値エラー
12295	ブート部が存在しない
12541	データID異常（未対応のID）
12542	全体 LNG と受信データ長が違う
12543	コマンドコード異常
12545	ブロック No、全ブロック数異常
12546	プロック No が連続していない
12547	書き込みサイズが大きい
12548	書き込みエラー
12549	消去エラー
12550	サム値エラー
12551	ブート部が存在しない
12797	データID異常（未対応のID）
12798	全体 LNG と受信データ長が違う
12799	コマンドコード異常